

日本地理教育学会 第74回大会 発表資料

概念形成に着目した地図活用能力の系統性(3)

—高等学校地理総合における試案の作成—

日本地理教育学会第74回大会
2024年8月25日(日) 403

小谷 恵津子(玉川大学)
青柳 慎一(平成国際大学)
植田 真夕子(北海道教育大学旭川校)
岩見 和行(神奈川県立湘南高等学校)
(株)帝国書院 研究室

※この資料は、上記5者の共同研究発表資料を一部改編の上、集約したものです。

地理総合版試案作成にあたっての基本方針

小学校版・中学校版の方針や表の構成・枠組みを基本的に継承

① 地図活用能力に関連する概念形成への着目 (小谷2012, 2017)

地図を活用する「技能」の基盤に存在する「方法」に関する概念

➡ 地図から習得できる「社会的事象等について調べまとめる技能」 (マトリクス表A)
「～できる」とともに「～を知る」も位置付ける

中学校との関連とともに、社会人として地図を活用する際に役立つ能力とのつながりも視野に入れる

地図を活用することを通して獲得される「内容」に関する概念

➡ 地図から習得できる「地理的な見方・考え方」(マトリクス表B)
主題学習として展開する地理総合の授業づくりに活用しやすいものとなるよう、学習内容を踏まえつつ各項目を一般化した表現で示す

地理総合の教科の趣旨や特性、学習内容を踏まえ、中学校版よりも発展した学習活動を多く位置付ける(「考察する」「構想する」)

② 学校教育現場での利用しやすさを念頭に置く(表の枠組み, 表現, 具体例提示など)

→ 学習指導要領に位置付けられた地理総合の学習内容やその解説に示された地図活用に関する具体的な学習活動を洗い出すとともに、現行の高等学校用地図帳(3社7種類)と地理総合の教科書(5社7種類)に掲載されている地図に関わる学習活動も洗い出し、両表の枠組みに位置付けた上で分析・統合を行う

③ 中学・高校間の地図活用能力育成の繋がりや発展を意識した検討

地理総合版マトリクス表Bの作成

地理総合全体で1枚の表として作成する

- 縦軸は学習指導要領に示された地理総合の学習内容(中項目レベル)
※ 地図帳・教科書から抽出した学習活動をもとに、独自に小見出しを設定して整理(例)B(2)「地球的課題と国際協力」に設定した小見出し
1) 地球的課題, 2) 地球環境課題, 3) 資源・エネルギー問題, 4) 人口問題, 5) 食糧問題, 6) 都市・居住問題, 7) 民族問題
- 横軸は学習指導要領の解説に「地理的な見方・考え方」を構成するものとして示された5つの視点

地理総合の教科の趣旨を踏まえるとともに、小・中学校の学習を通して身に付けた概念を活用・発展させる学習となるよう、「考察する」および「構想する」学習活動を新たに位置付ける

- 「考察する」は特に<③人間と自然環境の相互依存関係><④空間的相互依存作用>に、「構想する」は特に<⑤地域>に積極的に位置付け

地理総合の教科の特性を踏まえ、項目の内容や表現を検討する

- 学習内容に応じて習得したい「地理的な見方・考え方」を小見出しを付して整理しながら具体的に示す一方で、各項目を一般化した表現にすることにより、主題学習として展開する地理総合の授業づくりに活用しやすくする
- 項目の表現を一般化することへの対応として、学習活動例を小・中学校版よりも豊富に示す

B(2)2<③>
地球環境問題の進行を、人口の増加やそれに伴う経済活動などと関連付けて、地図から考察する。
例) サヘルや東アフリカなどの森林減少の進行を、農地や養殖施設の拡大を目的とした森林伐採によるものであることと関連付けて、地図から考察する。

B(2)3<⑤>
世界の資源・エネルギー問題を、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球規模で協力して取り組むべき課題であると認識し、その解決に向け、地図から構想する。
例) 世界のエネルギー問題を、化石燃料の使用削減や、再生可能エネルギーの普及などの観点から、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球規模で協力して取り組むべき課題であると認識し、その解決に向け、地図から構想する。

B(2)「地球的課題と国際協力」より一部抜粋

地理総合版マトリクス表Aの作成

作図・描図より

デジタル地図やGISの活用に関する項目を積極的に位置付ける

各項目を小見出しを付けて整理し、それらを学習指導要領の解説に示されている各技能を育成する視点と関連付けて色分けする。さらに小見出し内の項目を、平易な活動から高度な活動へと配置する

各項目は、授業での学習活動を想定しつつも一般的な表現にするとともに、具体的な学習活動例を適宜加えて示し、地理がご専門でない先生にも活用していただきやすいよう工夫する

中学校までに身に付けた技能との関連(反復的活用と発展の2種)と共に、社会人にとって有用な地図活用能力を視野に入れたときに地理総合で取り扱いたい内容を記号(*)を付けて位置付ける

参考資料・学習指導要領の解説での分類に則して3枚の表で構成し、中学校修了までと高校修了までに身に付けておきたい技能の具体とともに示す

- 縦軸は学習指導要領に示された学習内容(中項目レベル)
- 横軸は「ア. 地図の要素別」と「イ. 図の種類別」の2つで構成
→ 学習指導要領や解説には示されていない「略地図」も、社会人にとって有用な地図活用能力であると考え表中に位置付ける(イ. Ⅲ)

今後の展望

- これまでに作成した3つの試案の分析をさらに進め、小学校・中学校・高等学校を通じた系統的な地図活用能力の育成の理論をより精緻なものにするとともに、社会人として地図を活用するときに役立つ能力とのつながりについても検討を行うこと。

参考文献

井田仁康(2018):『地理総合』の内容とその特性. 確井照子編著『地理総合』ではじまる地理教育, 古今書院, pp.1-10.
小谷恵津子(2012): 地図を用いた社会科学習で形成する方法概念と内容概念. 新地理, 60(3), pp.1-18.
小谷恵津子(2017): スケール認識の形成を視点とした小学校地図学習の改善—縮尺指導の授業構成と学習内容の検討を通して—. 新地理, 65(2), pp.1-18.
文部科学省(2018):『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』, 東洋館出版社, 237p.
文部科学省(2019):『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』, 東洋館出版社, 451p.

分析した教科書・地図帳

松原宏ほか29名(2023):『地理総合』, 東京書籍
吉田圭一郎ほか17名(2023):『地理総合』, 実教出版
戸井田克己ほか17名(2023):『高等学校 新地理総合』, 帝国書院
菊地俊夫ほか15名(2023):『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』, 二宮書店
井田仁康ほか14名(2023):『わたしたちの地理総合 世界から日本へ』, 二宮書店
浅野敏久ほか10名(2023):『高等学校 地理総合 世界を学び、地域をつくる』, 第一学習社
加賀美雅弘ほか15名(2023):『高校生の地理総合』, 帝国書院

金田章裕ほか7名(2023):『新高等地図』, 東京書籍
帝国書院編集部代表者 佐藤清ほか5名(2023):『新詳高等地図』, 帝国書院
帝国書院編集部代表者 佐藤清ほか6名(2023):『標準高等地図』, 帝国書院
二宮書店編集部代表者 大越俊也(2023):『高等地図帳』, 二宮書店
二宮書店編集部代表者 大越俊也(2023):『詳解現代地図 最新版』, 二宮書店
二宮書店編集部代表者 大越俊也(2023):『基本地図帳』, 二宮書店
二宮書店編集部代表者 大越俊也(2023):『コンパクト地理総合地図』, 二宮書店



概念形成に着目した地図活用能力の系統性(3)

—高等学校地理総合における試案の作成—

小谷 恵津子 (玉川大)*・青柳 慎一 (平成国際大・非)・植田 真夕子 (北海道教育大旭川校)
岩見 和行 (神奈川県立湘南高)・(株)帝国書院研究室

キーワード：地図活用能力 概念形成 社会的事象について調べまとめる技能
地理的な見方・考え方 系統性

1. はじめに

本研究の目的は、地図活用能力を育成するために児童・生徒に具体的に何を指導すれば良いのかを検討し、それらを学校段階や学年・学習内容に着目して整理して、学校教育現場での授業づくりに活用していただけるものとして示すことである。

これまでの研究成果である小学校および中学校における具体的な指導内容については、実際の授業を想定した活用例を併せて示し、教授用資料「小学校で身に付けたい地図活用能力」(以下、小学校版)ならびに教授用資料「中学校で身に付けたい地図活用能力—地理的分野を例に—」(以下、中学校版)として公表した(帝国書院、2023および2024)。その成果を踏まえ、平成30年に改訂された高等学校学習指導要領において必修科目として位置付けられることになった地理総合での試案(以下、高校版)を作成した。

2. 高校版作成にあたっての基本方針

高校版でも、小学校版、中学校版と同様、地図活用能力育成とその系統を検討する際に概念の形成に着目している。また、小・中学校間での地図活用能力育成の繋がりが把握しやすくなるよう、引き続き「地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』」(以下、マトリクス表A)と「地図から習得できる『地理的な見方・考え方』」(以下、マトリクス表B)の2種類のマトリクス表から構成するとともに、両表とも基本的にはこれまでの枠組みを継続して用いることとし、学習指導要領に示された地理総合の学習内容に基づいて具体的な指導内容を検討した。

3. 高校版の作成と小・中学校との系統性

a) マトリクス表A

高校版も「情報を収集する技能(収集・選択)」、「情報を読み取る技能(読図)」、「情報をまとめる技能(作図・描図)」の3つの表で構成した。横軸はこれまでと同様、「ア. 地図の要素別」と「イ. 図の種類別」とし、各表の冒頭に「中学校修了までに身に付けておきたい技能」、末尾に「高等学校修了までに身に付けておきたい技能」を示すことで、各技能の発展の具体が把握できるようにした。なお、小・中学校版に「イ.Ⅲ」の項目として位置付けられていた「略地図」については、地理総合の学習指導要領やその解説には示されていないものの、社会人にとって有用な地図活用能力には欠くことができないものと考え、高校版でも表中に位置付けることとした。縦軸は中学校版と同様、地理総合の学習内容を大項目レベルで位置付けた上で小見出しを付けるとともに、各小見出しの配置や位置付く項目を、授業での学習活動の展開を想定した配置や表現にすることで、具体が伝わりやすくなるようにした。

さらに高校版では、小・中学校からの発展性や社会人として地図を活用する際に役立つ能力へのつながりを視野に入れ、独自の工夫を加えている。1つ目は、学習内容や学習活動の高度化に伴い、地理がご専門でない先生方にもイメージしていただきやすいよう、授業における学習活動例を加えたことである。特に地理総合設立にあたって注目を集めたGISの活用については、学習活動とともに活用できる様々なWebサイトまで具体的に示していることから、授業づくりを構想する際に役立てていただけるものとなっている。2つ目は、学習指導要領には地理総合の学習内容として示されていないが、社会人にとって有用な地図活用能力を視野に入れたときに、可能であれば地理総合で

扱っておきたいものとして、記号を付した上で発展的な内容も位置付けたことである。これにより、義務教育段階で育成する地図活用能力を生かし、社会人にとって有用な地図活用能力へと発展を図っていく、必修科目としての地理総合の役割が可視化されるものになったと考えている。

b) マトリクス表B

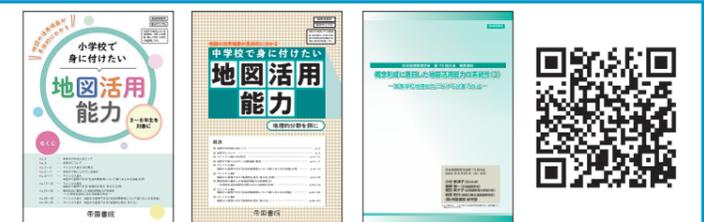
高校版でも横軸に「地理的な見方・考え方」を構成する視点として示された5つの地理学の基本概念を、縦軸に地理総合の学習内容を中項目レベルで位置付けた。特に、大項目BおよびCに関しては、ローカル・グローバルな課題を発見し、持続可能な社会の実現を目指して解決案を構想する主題学習を展開していくという地理総合の内容や教科の特性を踏まえ、世界の生活文化の多様性や地球的課題、防災などを考察するために形成したい概念を具体的に示した。また、必要に応じて授業で取り上げる地域を想定した学習活動例を併記し、活用していただきやすいものとなるよう工夫した。加えて、地理総合の教科の趣旨を踏まえるとともに、小・中学校の学習を通して身に付けた概念を活用、発展させる学習となるよう、「考察する」および「構想する」学習活動を多く位置付けた。

参考文献

- 帝国書院 (2023、2024)：小学校・中学校・高等学校を通じた系統的な地図活用能力の育成のために。 <https://www.teikokushoin.co.jp/chizukatsuyo/sho/> (2024年6月3日)
- 文部科学省 (2019)：『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』、東洋館出版社、451p.

▼本発表の関連資料を取りまとめたWebページはこちらです。

- 「小学校で身に付けたい地図活用能力 —3~6年生を対象に—」
- 「中学校で身に付けたい地図活用能力 —地理的分野を例に—」
- 「概念形成に着目した地図活用能力の系統性(3) —高等学校地理総合における試案の作成—」



マトリクス表A

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』

(1) 情報を収集する技能 《収集・選択》

ア. 地図の要素別

学習指導要領の中項目	<a 方位>	<b 記号>	<c 縮尺>	<d 高さ>	<e 図法>	<I 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<II 主題図> テーマがしぼられた地図	<III 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図		
中学校修了までに身につけておきたい技能	・地域調査で実際の方位と地形図の方位を照らし合わせながら情報を収集することができる。	・地域調査で、実際の現地の様子と地図上の記号を照らし合わせながら地域の特色となる情報を収集できる。 ・紙地図の凡例や、デジタル地図の表示可能要素を確認して、課題の設定や追究に適した記号が載っている紙地図やWebサイト等を収集・選択することができる。	・課題の設定や追究に適した縮尺や範囲の地図を収集・選択したり、デジタル地図の縮尺や範囲を調整したりできる。	・地域調査で、実際の高さや傾斜と地形図の等高線を照らし合わせながら情報を収集することができる。	・図法に関する基礎的な理解を踏まえて目的に合った地図を選択することができる。	・地図帳をはじめ様々な文献や資料、統計情報に関するWebサイト等を活用して、必要な情報が得られる一般図を収集・選択したり、地域の大観や地域調査に必要な情報を収集したりできる。	・地図帳をはじめ様々な文献や資料、統計情報に関するWebサイト等を活用して、必要な情報が得られる主題図を収集・選択したり、課題の設定・追究に必要な情報を収集したりすることができる。			
A(1) 地図や地理情報システムと現代世界	1					*目的に応じた場所を、地図帳やデジタル地図で探すことができる。 例) 世界のさまざまな自然的国境、人為的国境を、地図帳や「Google Earth」で探すことができる。 (中「収集」-A2<I>)	*身の回りにある地図(路線図、道路地図、案内図、地図アプリなど)の入手方法を知る。 (中「収集」-B1<II>)			
	2							*掲載写真の撮影場所を、地図帳やデジタル地図で探すことができる。 例) 掲載写真の撮影場所を、「Google Earth」で探すことができる。 (中「収集」-A2<I>)	*WebGIS(インターネット上に公開されているデジタル地図)には様々なテーマのものがあることを知る。 例) 「World Sunlight Map(世界の昼の地域を表示)」、「Earth Cam(世界のライブカメラ)」、「海しる(海の環境や防災などのテーマ別の地図)」、「今昔マップ on the web(地形図の新旧比較など)」、「ひなたGIS(各種データの重ね合わせが可能)」、「Worldmapper(様々なカルトグラム)」など。	
	3							*日本国内の地域の特徴や課題を理解するために、その手がかりをデジタル地図や写真で探すことができる。 例) 特定の地域に観光客が集中することによって生じる課題を理解するために、「Google Earth」のストリートビュー機能で京都市の清水寺周辺を見て、狹隘な道路や、観光地が住宅地の中に混在しているなどの情報を収集できる。	生活の中にある地図や、WebGISの活用事例を、探しだすことができる。 例) 観光案内図から観光情報を、鉄道路線図から交通経路を、「Google Map」で目的地までの道順の情報を収集することができる。	
	4							*カーナビゲーションシステムは、デジタル地図の一つであることを知る。	追求したいテーマについて、変化の様子を読み取ることができる複数年次の地図を、探すことができる。 例) 国家間の結び付きの変化について、年次の異なる貿易の輸出入額の地図から、緊密化・複雑化についての情報を収集できる。	
	5	正しさに留意した収集	情報手段の特性や留意した収集	地図には、世界地図のような小縮尺の地図から地形図のように現実に近い大縮尺まで様々な種類があることを知る。	情報手段の特性や留意した収集	世界地図の図法には必ずゆがみがあり、正しく表現されている要素と、正しく表現されておらずゆがんでいる要素(面積、距離、形、方位、角度など)があることを知る。 (中「収集」-A1<e>)	*紙の地形図には、発行した時点の情報を保存できる利点があることを知る。	様々な機関や団体が提供するWebGISなどを用いて地理情報を入手、活用できる。 例) 「JSTAT MAP(総務省統計局)」、「RESAS(内閣官房)」、「MY CITY FORECAST(社会基盤情報流通推進協議会)」、「ジオグラフ(帝国書院&都市構造可視化推進機構)」など。 (中「収集」-B2<II>)		
	6			使用目的や用途、内容に応じて、適切な範囲、縮尺の地図を選択できる。 (中「収集」-B1<c>)		使用目的や用途、内容に応じて、適切な図法の地図を選択できる。 (中「収集」-B8<e>)	*紙の地形図は、タブレットの画面よりも広い範囲を一目で見渡すことができることを知る。	課題解決に向けて有用な情報を、作成母体の意図や作成背景などに留意しながら収集できる。 (中「収集」-B6<II>)		
	7			使用目的や用途、内容に応じて、任意の縮尺での利用が可能なデジタル地図を、選択できる。 (中「収集」-B2<c>)		*さまざまな図法の地図を適切に用いることで、視点を変えて情報を収集できることを知る。	*デジタル地図は、スマートフォンに取り込んで持ち歩けることを知る。	使用目的や用途、内容に応じた適切な主題図を、図法の特性や示されている統計の階級区分、表現方法等に留意しながら選択できる。 (中「収集」-B7<II>)		
	8	デジタル地図の活用	デジタル地図の活用	*デジタル地図では、データの更新が早いことを知る。 (中「収集」-A3<c>)	デジタル地図の活用	*デジタル地図では、必要に応じて高さを強調表示して、そこから情報を収集できることを知る。 例) 「地理院地図」の3D立体図、「Google Earth」など。	*デジタル地図では、レイヤーなどを操作することで、最初の表示画面から情報を増やして重ね合わせられる場合もあることを知る。 例) 地理院地図では、レイヤーを操作することで、標準地図に「色別標高図」や「明治期の低湿地」などの情報を重ね合わせられることを知る。	課題解決に向けて有用な情報を、情報量に地域的な偏りがあることに留意しながら、地図やWebGISを用いて適切に収集できる。		
	9			*GIS(地理情報システム)とは、位置情報を持つデータを重ね合わせて記録するしくみであることを知る。			目的地までのルートを探索するときに、紙の地図とインターネット上に公開されているデジタル地図の両方を収集して比較できる。	信頼できる統計等の情報を、作成母体が主に政府機関や研究機関、その他公的機関であることなどに留意しながら収集できる。 (中「収集」-B4<II>)		
	10			*デジタル地図では基本的に、複数のデータがそれぞれのレイヤーとして整理され、重ね合わされていることを知る。			*外国製の地図は、国境線や地名表記が日本政府の見解と異なる場合があることを知る。 例) 「Google Map」など。	信頼できる統計等の情報を、作成母体が公的機関ではない場合は、意図的な印象操作や不適切な表現がなされていないか、データの出典先は信頼できるかなどについて、より入念に留意しながら収集できる。 (中「収集」-B5<II>)		
	11			*デジタル地図のレイヤーを確認して、どのようなデータが重ね合わされているかを把握できる。				公的機関が提供している統計データサイトから、地理情報を入手、活用することができる。 例) 「E-Stat(総務省統計局)」、「統計ダッシュボード(総務省統計局)」など。		
	12			*デジタル地図の各レイヤーの凡例を確認して、適切な情報を入手できるか判断できる。						

* 学習指導要領(地理総合)に直接的には記載されていないが、社会人にとって有用と考えられる技能
 ・学習指導要領(地理総合)内に例示がなくとも、文意から扱うべきと考えられる学習活動については*マークを付していない。
 ・学習指導要領(地理総合)内に明示がないが、社会人にとって有用で、かつ中学で既習の学習項目については、*マークと中学校との関連を示すマークの両方を付している。

小見出しの色 調査活動を通して 諸資料を通して 情報手段の特性や情報の正しさに留意して

中学との関連 中「収集」-A2<I> 中学の技能を反復的に活用 中「収集」-A2<I> 中学の技能をより発展

青字：学習活動例

イ. 図の種類別

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』

(1) 情報を収集する技能 《収集・選択》

ア. 地図の要素別

学習指導要領の中項目	<a 方位>	<b 記号>	<c 縮尺>	<d 高さ>	<e 図法>	<I 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<II 主題図> テーマがしぼられた地図	<III 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図	
A(1) 地図や地理情報システムと現代世界	13	デジタル地図の活用 *地理空間情報には、位置情報と属性情報とがあることを知る。	地形図と地理院地図 *地理院地図は、縮尺をズームレベルで表していることを知る。						
	14								
B(1) 生活文化の多様性と国際理解	1								
B(2) 地球的課題と国際協力	1	さまざまな資料の中から、地理学習に結び付かない高度な情報や詳細過ぎる情報を省いて、課題の解決に向けて有用な情報を、適切に収集できる。 例) ウェブ上の新聞記事などを読み、主題図から読み取った情報と比較・関連付けしながら、課題把握や解決に役立つ情報のみを、箇条書き、キーワードの抽出、短文要約などの形でまとめながら収集することができる。						目的に応じた諸資料の収集 *複数の地理的事象の相互関係を位置関係と共に示した構造図を作成する際に、主題図から適当な情報を選択できる。 例) 地球温暖化問題について、「国別1人当たりGNI」と「国別1人当たり二酸化炭素排出量」の主題図から、「先進国・新興国」=「多い」、「低所得国」=「少ない」のように大まかな傾向の情報を収集することができる。	
	1				地形図と地理院地図 *地理院地図では、標高によって色を変えて示すことができることを知る。 (中(読図)-A15(d))				
C(1) 自然環境と防災	2					地形図と地理院地図 *地理院地図では、過去の大規模な自然災害についての空中写真や津波浸水区域図などをレイヤーで見ることができることを知る。	現地調査を 防災に関わる地域の地形や土地利用の特徴やその変化などの情報を、現地での観察や野外調査などによって収集できる。		
	3					*防災に関わる地域の、地形や土地利用の変化などの情報を、適切な年次、適切な範囲の地図を選択して、収集することができる。 例) 「今昔マップ」の過去の年次の地形図から、地域の昔の地形や土地利用の情報を収集することができる。	目的に応じた諸資料の収集 防災に関わる地域の地形や土地利用の特徴などの情報を、「地理院地図」で閲覧できる複数の主題図から収集できる。 例) 色別標高図(土地の高低差)、陰影起伏図(地表面の凹凸)、治水地形分類図(地形の分類)、土地条件図(土地の成り立ち)など。 (中(収集)-C4(II))		
	4						*風水害について、様々なWebサイトの地図から情報を入手できることを知る。 例) 「tenki.jp(日本気象協会)」、「天気予報、ナウキャスト、防災情報(気象庁)」、「浸水ナビ(国土交通省)」など。		
	5						情報手段の特性や正しさに留意した収集 災害の危険度や想定被害の大きさなどを示した地図をハザードマップと呼ぶことを知る。 *WebGISでは、自然災害の想定と地形、土地利用の変化などを重ねて表示できることを知る。 例) 「重ねるハザードマップ」では、津波・洪水・土砂災害・地形分類などを重ねて表示できることを知る。 例) 「今昔マップ」の新旧地形図上にハザードマップを重ねて表示できることを知る。		
	6								
	6								
C(2) 生活圏の調査と地域の展望	1						現地調査を 聞き取り調査の場合には、必要な地図資料をあらかじめ収集し、具体的に何を聞き取るか計画を立ててから、現地で調査を行うことができる。		
	2						目的に応じた諸資料の収集 地図帳や、図書室にある書籍、新聞やインターネット、自治体史(県史や市町村史)を用いて、地域の概要や課題に関わる全体像を大観するための、情報収集を行うことができる。 例) 地域の概要について、地図帳の主題図から日本全体の中で見た地形や気候、人口、産業などの情報を収集することができる。 (中(収集)-B1(II))		
	3						*調査地域の行政の政策を、地図やパンフレットなどから情報収集することができる。 例) 観光パンフレット、子育て支援に関する地図、パークアンドライドに関する地図など。 (中(収集)-C2(II))		
高校修了までに身につけておきたい技能		*探究課題に応じた情報を収集する際に、紙地図の方位や、デジタル地図の向きや角度などの視点を適切に選択できる。 *探究課題に応じた情報を収集する際に、複数の資料から課題解決に必要な情報を、効率よく選択することができる。	探究課題に応じた情報を収集する際に、複数の資料から課題解決に必要な情報を、効率よく選択することができる。	探究課題に応じた情報を収集する際に、紙地図やデジタル地図の縮尺や範囲を選択できる。	*探究課題に応じた情報を収集する際に、紙地図やデジタル地図で等高線を確認したり、必要に応じて着色や高さ強調をしたりして、適切な高さや地形を選択できる。	探究課題に応じた情報を収集する際に、図法に関する基本的な理解をふまえて、目的にあった紙地図やデジタル地図を選択できる。	*探究課題に応じた情報を収集する際に、情報の特性や正しさに留意して、適切な一般図を、紙資料や地図帳、Webサイトから効率よく選択できる。	探究課題に応じた情報を収集する際に、情報の特性や正しさに留意して、多面的・多角的な主題図を、紙資料や地図帳、Webサイトを用いて効率よく選択できる。 探究の方向性の修正が必要になった場合には、収集の方法を柔軟に変えるなどして、粘り強く取り組むことができる。	*探究課題に応じた略地図や位置関係を示した構造図をつくる際に、適切な情報を収集・選択できる。

* 学習指導要領(地理総合)に直接的には記載されていないが、社会人にとって有用と考えられる技能
 ・学習指導要領(地理総合)内に例示がなくとも、文意から扱うべきと考えられる学習活動については*マークを付していない。
 ・学習指導要領(地理総合)内に明示がないが、社会人にとって有用で、かつ中学で既習の学習項目については、*マークと中学校との関連を示すマークの両方を付している。

小見出しの色 調査活動を通して 諸資料を通して 情報手段の特性や情報の正しさに留意して

中学との関連 中(収集)-A2(I) 中学の技能を反復的に活用 (中(収集)-A2(I)) 中学の技能をより発展

青字：学習活動例

イ. 図の種類別

マトリクス表A

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』

(2) 情報を読み取る技能 《読図》

ア. 地図の要素別

学習指導要領の中項目	<a 方位>	<b 記号>	<c 縮尺>	<d 高さ>	<e 図法>	<I 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<II 主題図> テーマがしぼられた地図	<III 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図	
中学校修了までに身につけておきたい技能	・16方位を用いて地図から適切に方位を読み取ったり、大陸や国、都市などの位置関係を読み取ったりすることができる。	・地図のスケールや種類に応じて、記号や彩色、文字などを手掛かりに位置や分布など地理的事象に関する情報を読み取ることができる。 ・緯度と経度（緯線・経線）を手掛かりにして位置関係を読み取ることができる。 ・デジタル地図での記号の操作方法を知る。	・適切なスケールの地図を用いて地理的事象を読み取ることができる。 ・縮尺に留意して距離や範囲を読み取ることができる。	・等高線や等高線から土地の起伏を捉えて、おおまかな地形の特色や傾斜の様子を読み取ったり、他の情報と関連付けて地域の特色を読み取ったりできる。	・正積図、正距方位図などの図法の特色を理解し、目的に応じた地図を選択して情報を読み取ることができる。	・調べたい地域の一般図を用いて、地理的特色を読み取ることができたり、複数の情報を総合的に関連付けて読み取ったりすることができる。	・テーマに応じた主題図の凡例を手がかりに、調べたい地域に関する情報を読み取ったり、複数の情報や資料を比較、関連付けて読み取ったりすることができる。	・作図の意図を踏まえて、適切に情報を読み取ることができる。	
A (1) 地図や地理情報システムと現代世界	1 方位の基礎	* 方位のしくみと16方位の名称を知る。 (中「読図」-A1(a))	地図やデジタル地図は、分布や広がり、地域間の結びつきなどを記号で示すのに適しており、文字のみの情報では表現し得ないその役割や有用性を知る。		地図から情報を読み取る際に、その地図が用いている図法が面積・距離・角度・方位についてどれだけ正しく示しているかに留意して読み取ることができる。 例) 正積図法と他の図法で、グリーンランドやアラスカの大きさが、どのように違って表示されるかを、地図から読み取ることができる。 (中「読図」-A2(e))	様々な目的に使われることを前提とした地図を、一般図と呼ぶことを知る。	特定の目的に特化した地図を、主題図と呼ぶことを知る。 (中「読図」-A1(II))	全体の傾向性	
		2 世界地図上で、東京からの方位を調べることができる。	地図やデジタル地図上の記号から、何がどこにどのように分布しており、どのような傾向が見られるのか等を読み取ることができる。		* 様々な地点を中心とした正距方位図法の地図から大陸や都市間の位置関係を読み取ることができる。 例) メルカトル図法の地図ではユーラシア大陸と北アメリカ大陸が離れているように見えるが、北極点中心の正距方位図法の地図では、二大陸が北極海を挟んで比較的近く向かい合っているように見えることを読み取ることができる。 (中「読図」-A6(e))	* 一般図から、世界・国の地域区分やその名称、境界の位置を読み取ることができる。	全体の傾向性	主題図から、示されたテーマについての分布や広がり、地域間の結びつきなどを考慮して地図上で読み取ることができる。 例) 日本の航空会社の航空路線の分布から、日本と結びつきの強い国を読み取ることができる。 例) 海底ケーブル網の分布から、インターネットなどの情報の結びつきの強い地域を読み取ることができる。 (中「読図」-B6(II))	全体の傾向性
			3 様々な主題図の記号の色彩表現や凡例などに留意しながら、情報を適切に読み取ることができる。	様々な主題図の記号の色彩表現や凡例などに留意しながら、情報を適切に読み取ることができる。		* 地図は、範囲と図法の中心点をどこにするかで読み手に与える印象が大きく変わることを知る。 例) 東京中心の世界地図、ロンドン中心の世界地図、北極点中心の地図など。 (中「読図」-A2(I))	地図帳の一般図から、様々な記号を用いて表現されている、地形や植生、都市の規模や交通機関、地名や行政界、土地利用などの地域の状況を目的に応じて読み取ることができる。	全体の傾向性	* 主題図を、どのような情報が併記、選択、強調されているかに留意しながら、読み取ることができる。 例) 一つの主題図に二酸化炭素の国別総排出量と1人当たり排出量が併記されている場合には、それらの関連性や違いに留意しながら読み取ることができる。 (中「読図」-B10(II))
		4 同一地域の複数年次の地図やデジタル地図上の記号から、何がどこにどの程度移動したり、何がどの程度増減したのか等を読み取ることができる。	同一地域の複数年次の地図やデジタル地図上の記号から、何がどこにどの程度移動したり、何がどの程度増減したのか等を読み取ることができる。				位置関係や広がりを読む	現代世界で諸課題が起きている地域の位置や広がりを視覚的につかむには、地図やWebGISが効果的であることを知る。 例) 各国の1人あたりGNIの地図から、経済格差や南北問題の課題を読み取ることができることを知る。	位置関係や広がりを読む
	5 地球儀	* 地球儀上と世界地図（メルカトル図法やミラー図法）上での見かけ上の最短経路や方位の違いを、その違いが生じる理由を踏まえて読み取ることができる。 (中「読図」-A11(a))	* 日本と同じ緯度・経度にある国を調べたり、日本の代表的な都市や自分が住んでいる市町村と同じ緯度にある世界の都市を探ることができる。 (中「読図」-A6(b))			地球儀と世界地図を相互に比較して、球面として捉える世界像と平面として捉える世界像では、方位や位置などの関係が異なる場合があることを読み取ることができる。 (中「読図」-A10(e))		世界全体を俯瞰して理解するために、地球の陸地と海洋や、国際機関や地域経済圏に属する国などを示した地図を読み取ることができる。 例) 世界の東西対立を理解するために、冷戦当時の国際機構の地図から、国家間のつながりを読み取ることができる。 (中「読図」-B6(II))	位置関係や広がりを読む
		6 緯度・経度がわかっている地点の対照点を、求めることができる。	* 緯度・経度がわかっている地点の対照点を、求めることができる。				別の資料と関連付ける	* 地域の傾向性・規則性を理解するために、別の資料と関連付けて、一般図から情報を読み取ることができる。 例) 低緯度と高緯度の季節ごとの特徴の違いについて理解するために、日の出・日の入の時刻が掲載されているWebサイトの情報と関連付けて、一般図から複数の都市の緯度を読み取ることができる。 例) 緯度による日照時間の違いについて理解するために、WebGIS「ShadeMap(日照で変わる建物の影を表示)」や地球の公転に関する模式図と関連付けて、一般図から複数の都市の緯度を読み取ることができる。 (中「読図」-B13(I))	別の資料と関連付ける
	7 デジタル地図の活用	* 地理院地図などのWebGISでは、地図をみる方向や角度を自由自在に変化させることができることをふまえて、方位に留意して情報を読み取ることができる。 (中「読図」-A15(a))	* デジタル地図において、地図記号から建物の種類や土地利用の様子を読み取ることができる。 例) 地理院地図で、記号から学校の分布を読み取ることができる。	* WebGISでは、表示範囲を拡大・縮小するに伴って画面上同じ長さでも実際の距離は変動することに留意して情報を読み取ることができる。 (中「読図」-A15(c))		* 正距方位図法を表示できるデジタル地図を用いて、任意の国(地域、都市)と周辺地域との距離や位置関係から、地域間の結びつきを読み取ることができる。 例) 「どこでも方位図法」などを活用する。 (中「読図」-B11(I))	複数の視点で地域を読む	複数の主題図を並べたり重ねたりして、表された事象の分布の特徴や共通する要因、主題と主題の関連性などについて読み取ることができる。 例) 人口密度の主題図をコンビニエンスストアの主題図と比較して、人口密度が高い地域にコンビニエンスストアが多く立地する傾向があることを読み取ることができる。 例) 観光客の受入数の主題図を他のさまざまな主題図と比較して、国・地域の観光客受入数の多少の違いを生む要因を読み取ることができる。 (中「読図」-B10(II))	複数の視点で地域を読む
		8 地理院地図などのWebGISでは、小縮尺になるほど地図中表示される地理情報が減少するという特性に留意しながら読み取ることができる。	地理院地図などのWebGISでは、小縮尺になるほど地図中表示される地理情報が減少するという特性に留意しながら読み取ることができる。 例) 「地理院地図」において、小縮尺の地図上で見られる「東京〇」等の表示は、その都道府県の中心位置という意味ではなく、都道府県庁の位置を示していることを大縮尺の地図から読み取る。また、その作業のなかで、小縮尺では表示されていなかった細かな建物や道路網が、大縮尺になるほど詳しく表示されていくことを読み取ることができる。 (中「読図」-A16(c))			* 新しい距離を測ることができるデジタル地図を用いて、他の図法の見かけの距離と実際の距離の違いを読み取ることができる。 例) 日本からヨーロッパへの航空路の北回り航空路と南回り航空路について、正しい距離が測れる「Google Earth」で計測した最短ルートと、メルカトル図法で判断した最短ルートの違いを読み取ることができる。 (中「読図」-B14(I))	他地域と比較する	異なる地域間において、共通する情報を比較、関連付けて読み取ることができる。 例) 東南アジアや南アジアの大河川の下流域は、水田に利用される傾向があることを読み取ることができる。 (中「読図」-C8(II))	他地域と比較する

* 学習指導要領(地理総合)に直接的には記載されていないが、社会人にとって有用と考えられる技能

・学習指導要領(地理総合)内に例示がなくとも、文意から扱うべきと考えられる学習活動については*マークを付していない。
・学習指導要領(地理総合)内に明示がないが、社会人にとって有用で、かつ中学で既習の学習項目については、*マークと中学校との関連を示すマークの両方を付している。

小見出しの色

- 情報全体の傾向性を踏まえて
- 必要な情報を選んで
- 複数の情報を見比べたり結び付けたりして
- 資料の特性に留意して

中学との関連

- 中「読図」-A1(a) 中学の技能を反復的に活用
- 中「読図」-A2(e) 中学の技能をより発展

青字：学習活動例

イ. 図の種類別

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』

(2) 情報を読み取る技能 《読図》

ア. 地図の要素別

学習指導要領の中項目	<a 方位>	<b 記号>	<c 縮尺>	<d 高さ>	<e 図法>	<I 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<II 主題図> テーマがしぼられた地図	<III 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図
A (1) 地図や地理情報システムと現代世界	9	<p>* 地形図の記号は年代によって新設・廃止されるため、比較する際は凡例を確認することが必要であることを知る。</p> <p>中(読図)-C1(b)</p>		<p>* 1/5万、1/2.5万の地形図で、主曲線と計曲線がそれぞれ何m間隔かを知る。</p> <p>中(読図)-C2(d)</p>	<p>* 地図帳の縮尺に付された注記に留意して、地図を正しく読み取ることができる。</p> <p>例) ミラー図法の世界地図のスケールバーに付された「(赤道における距離)」の注記に留意して、赤道から離れた地域でそのスケールバーが有効でないことを読み取ることができる。</p>		<p>時差が生じるしくみを、球体の地球儀と平面の地図との比較を通して知る。</p> <p>中(読図)-A12(Ⅱ)</p>	
	10	<p>* 地形図上に描かれた記号から、おおまかにその場所の風景を読み取ることができる。</p> <p>例) 地理院地図の大縮尺の標準地図の記号から、住宅地や水田・畑などの土地利用を読み取り、風景を想像することができる。</p> <p>中(読図)-C6(b)</p>		<p>* 等高線が密なところは地面の傾きが急で、まばらなところは緩やかなことを知る。</p> <p>中(読図)-C3(d)</p>	<p>* 地図帳掲載の異なる図法で描かれた世界地図を比較して、見かけ上の距離の違いを読み取ることができる。</p> <p>例) 地図帳のミラー図法の世界地図と、東京を中心とした正距方位図法の地図に、日本を出発点、オランダを終着点とした北回り航路と南回り航路を記入して、見かけ上の距離と実際の距離の違いを読み取ることができる。</p>		<p>* 等時帯図を用いて、外国と日本との時差や、日本と同じ等時帯の地域を読み取ることができる。</p> <p>中(読図)-A11(Ⅱ)</p>	
	11			<p>* 等高線の書かれた地図から、尾根線と谷線をたどることができる。</p> <p>中(読図)-C5(d)</p>			<p>* 等時帯図から、同じ経度でも異なる標準時を設定している国や地域があることを、読み取ることができる。</p>	
	12			<p>等高線から、地形を読み取ることができる。</p> <p>中(読図)-B2(d)</p>			<p>時差が日常生活や経済活動に与える影響を、等時帯図から読み取ることができる。</p> <p>例) 時差を利用した世界の分業システムを理解するために、アメリカ合衆国とインドの時差を読み取ることができる。</p> <p>例) 等時帯図を用いて、外国で行われるスポーツのライブ中継の自国での開始時間を計算することができる。</p>	
	13			<p>* 地理院地図のさまざまなレイヤーや機能を活用して、地形の特徴を読み取ることができる。</p> <p>例) 色別標高図や陰影起伏図から地形の特徴をつかんだり、3Dの立体地図や断面図の機能を用いて地形を立体的に読み取ったりすることができる。</p>			<p>* 主題図・統計地図の表現方法の種類と、その特徴を知る。</p> <p>中(読図)-B1(Ⅱ)</p>	
	14						<p>主題図を、統計の単位に留意しながら読み取ることができる。</p>	
	15						<p>分布図には、絶対分布図(データの絶対値を地図化)と相対分布図(単位あたりの相対値を地図化)があることを知る。</p>	
	16						<p>* 等値線図を、線の位置や密度に留意して、読み取ることができる。</p> <p>例) 世界の1月の気温分布の等値線図を、一番低い気温の線がある位置や、気温の差が大きい線の密度が高い場所に留意して、読み取ることができる。</p> <p>中(読図)-B21(Ⅱ)</p>	
	17						<p>* ドットマップを、ドットの集中しているところに着目して、分布を読み取ることができる。</p> <p>例) 中国の米のドットの分布を、河川周辺に集中していることに着目して、読み取ることができる。</p> <p>中(読図)-B20(Ⅱ)</p>	
	18						<p>* 複数のドットマップを、ドットの重なりに着目して、主題の関連性を理解しながら読み取ることができる。</p> <p>例) 北アメリカの豚とともころしのドットが大きく重なっている地域に着目して、とうもろこしが豚のえさである可能性を理解しながら読み取ることができる。</p>	
19						<p>* 階級区分図から、主題に関わる地域の特徴を、読み取ることができる。</p> <p>例) 1人あたり工業付加価値額が、北アメリカやヨーロッパ、日本などで高いことを、階級区分の色から読み取ることができる。</p> <p>中(読図)-B23(Ⅱ)</p>		
20						<p>* 階級区分図を他の表現の主題図と関連付けて、主題に関わる地域の特徴を、深く読み取ることができる。</p> <p>例) 国別1人当たりGNIの階級区分図とプランテーション農業の農作物の総記号が集中している地域を関連付けて、プランテーション農業の盛んな地域は1人当たりGNIが低いことを、読み取ることができる。</p> <p>中(読図)-B10(Ⅱ)</p>		

* 学習指導要領(地理総合)に直接的には記載されていないが、社会人にとって有用と考えられる技能

- ・ 学習指導要領(地理総合)内に例示がなくとも、文意から扱うべきと考えられる学習活動については*マークを付していない。
- ・ 学習指導要領(地理総合)内に明示がないが、社会人にとって有用で、かつ中学で既習の学習項目については、*マークと中学校との関連を示すマークの両方を付している。

小見出しの色

- 情報全体の傾向性を踏まえて
- 必要な情報を選んで
- 複数の情報を見比べたり結び付けたりして
- 資料の特性に留意して

中学との関連

- 中(読図)-A1(a) 中学の技能を反復的に活用
- 中(読図)-A2(e) 中学の技能をより発展

青字：学習活動例

イ. 図の種類別

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』

(2) 情報を読み取る技能 《読図》

ア. 地図の要素別

学習指導要領の中項目	<a 方位>	<b 記号>	<c 縮尺>	<d 高さ>	<e 図法>	<I 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<II 主題図> テーマがしぼられた地図	<III 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図
A (1) 地図や地理情報システムと現代世界	21						* 図形表現図から、図形の大きさや図形が集中しているところに着目して、主題に関わる地域の特色を読み取ることができる。 例) 自動車の生産の図形表現図から、中国やEUでさかんなことを、図形の大きさから読み取ることができる。 (中(読図)-B22(Ⅰ))	
	22						複数年次の図形表現図を比較して、地域の変化を読み取ることができる。 例) アメリカにおける異なる年代の肉牛の州別飼育頭数を比較し、生産が集中している地域が変化したことを読み取ることができる。 (中(読図)-B10(Ⅱ))	
	23						* 図形表現図と階級区分図とを関連付けて、地域の特徴を読み取ることができる。 例) 穀物自給率の階級区分図と、穀物輸出入・輸入量の半円グラフを関連付けて、穀物自給率が低い国では何を主食にしているかを推察しながら、読み取ることができる。	
	24						流線図を、発着地の特徴や流線の太さに留意して、地域間の結びつきを読み取ることができる。 例) 世界の主な観光客の移動を、出発地と受け入れ地、移動の人数の多さに留意して読み取ることができる。 例) 米の世界的な移動の特徴を、生産地と購入先、貿易量の多さに留意して読み取ることができる。 例) カカオの貿易の流線図から、少数の発展途上国から先進国に輸出されている特徴を、読み取ることができる。 (中(読図)-B24(Ⅰ))	
	25						* 複数の流線図を比較して、流通の特徴の共通点や相違点について、読み取ることができる。 例) 商品作物のカカオは少数の発展途上国から先進国に輸出されているのに対して、小麦は多くの先進国・新興国から幅広い経済水準の国に輸出されていることを、読み取ることができる。	
	26						* 流線図と階級区分図とを組み合わせて、国・地域の特徴を読み取ることができる。 例) 移民の送出先の流線図と1人あたりGNIの階級区分図を組み合わせて、移民は経済状況がよりよい国に集まることを読み取ることができる。	
	27						* カルトグラムを、変形で強調された意味に留意しながら、地域の特徴を読み取ることができる。 例) 世界の州別の二酸化炭素排出の累積量が特に多い地域を、カルトグラムから読み取ることができる。 (中(読図)-B25(Ⅰ))	
B (1) 生活文化の多様性と国際理解	1	一般図の記号から、都市、鉄道、高速道路、航路、港湾などの分布の特徴を読み取ることができる。 例) 三陸海岸には漁港が多く見られる。過疎地域には高速道路網があまり発達していないなどを読み取ることができる。 (中(読図)-C5(Ⅰ))	縮尺の基礎 主題図を、世界全体、州ごと、国ごと、都市内など、それぞれの地域の規模の違いに留意して適切に読み取ることができる。 例) 夏と冬のモンスーンと降水量の関わりについて、世界全図で全体の傾向をつかみ、東南アジアの地域図で詳細をつかむなど、スケールの使い分けに留意して読み取ることができる。	図法の基礎 * 国・地域の地形の特色(山地・山脈の連なり、平野の分布など)を、等高線の色、標高、地形を示す文字情報などから、読み取ることができる。	世界地図で、同一地域が左右の端に重なって掲載される図法の場合に、重複部分を認識しながら読み取ることができる。 例) 世界の気温と降水量の図、世界の地震と火山の図など。	事例とする地域の地球上の位置を、緯度・経度をめやすにして読み取ることができる。 例) ヨーロッパの国々が高緯度にあることを、読み取ることができる。 例) 南北アメリカ大陸では、中央を通る経線が異なることを、読み取ることができる。 (中(読図)-B7(Ⅰ))	地域の自然環境の特徴を、季節の異なる複数の主題図を比較して、読み取ることができる。 例) 地域や世界の年降水量の季節変化を、7月・1月の年降水量の主題図を比較して読み取ることができる。 (中(読図)-C8(Ⅱ))	位置関係や広がりを読む * 模式図から、地球上の気候のしくみを、読み取ることができる。 例) 地球の大気循環の模式図から、風が生じるしくみ、恒常風の風向や気圧帯の分布などの規則性を、読み取ることができる。
	2	* 地図の絵記号から、おもな産業の生産物の種類と分布を、読み取ることができる。 例) 石油精製工業がさかんな都市は、海岸沿いに分布していることを読み取ることができる。 (中(読図)-B7(Ⅱ))		等高線の形や等高線の色、河川の流路の特徴などから、小地形と土地利用の関係を読み取ることができる。 例) メコン川やガンジス川などの流域をみて、三角州は河口に位置する低平な地形であり、稲作地として利用されているという類似点を読み取ることができる。 (中(読図)-B2(d))		事例とする地域の広がりや、他地域の面積や長さをめやすにして、読み取ることができる。 例) アマゾン川の流域面積の広さを、同緯度同縮尺の日本の面積と比較して、読み取ることができる。	位置関係や広がりを読む 地域の生活文化の特徴を理解するために、複数の主題図を関連付けて読み取ることができる。 例) アフリカの経済的な課題を理解するために、原油や鉱産物の輸出に経済を頼っている割合と、国の1人あたりGNIの高さとの関わりを、読み取ることができる。 例) アフリカが新興市場として期待される理由を理解するために、インターネット普及率の伸びや、経済成長率の高さなどを関連付けて読み取ることができる。 (中(読図)-C12(Ⅱ))	
	3	* 地域に特有な記号から、地域の特色を読み取ることができる。 例) 世界文化遺産の記号から、地域の歴史をひも解くための手がかりを、読み取ることができる。 例) ヨーロッパの可航上限・下限の記号から、河川が内陸水運に使われていることを、読み取ることができる。		地形と人々の生活の関係を理解するために、標高とそこでみられる人間活動を、複数の地域を比較しながら読み取ることができる。 例) 日本の首都を含めた大都市は低平な土地に立地するものが多い一方で、南アメリカには標高2000m以上に首都がある国が複数見られることを読み取ることができる。		一般図から、世界の地形の分布の特色を、読み取ることができる。 例) 世界の砂漠は、中央アジア～北アフリカ、オーストラリアなど特定地域にまとまって分布することを、読み取ることができる。	複数の視点で地域を読む 地域の生活文化の特徴を理解するために、生活や生産を示す主題図と、自然環境を示す主題図を関連付けて、読み取ることができる。 例) 農業と自然環境の関係を理解するために、年降水量の図と農作物分布の図を関連付けて、年降水量1000mmが米と小麦の生産地域の境になっていることを、読み取ることができる。 例) 農業と自然環境の関係を理解するために、世界の農業地域と気候区分の主題図を関連付けて、読み取ることができる。 例) 農業と緯度の関係を理解するために、世界の農業地域と気候区分の主題図を関連付けて、酪農は冷涼な高緯度地域に、プランテーション農業は熱帯の低緯度地域に比較集中していることを、読み取ることができる。 (中(読図)-B6(Ⅰ))	(中(読図)-C11(Ⅱ))

* 学習指導要領(地理総合)に直接的には記載されていないが、社会人にとって有用と考えられる技能

- ・学習指導要領(地理総合)内に例示がなくとも、文意から扱うべきと考えられる学習活動については*マークを付していない。
- ・学習指導要領(地理総合)内に明示がないが、社会人にとって有用で、かつ中学で既習の学習項目については、*マークと中学校との関連を示すマークの両方を付している。

小見出しの色

- 情報全体の傾向性を踏まえて
- 必要な情報を選んで
- 複数の情報を見比べたり結び付けたりして
- 資料の特性に留意して

中学との関連

- 中(読図)-A1(a) 中学の技能を反復的に活用
- 中(読図)-A2(e) 中学の技能をより発展

青字：学習活動例

イ. 図の種類別

種類に応じた主題図の読み取り

複数の視点で地域を読む

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』

(2) 情報を読み取る技能 《読図》

ア. 地図の要素別

学習指導要領の中項目	<a 方位>	<b 記号>	<c 縮尺>	<d 高さ>	<e 図法>	<Ⅰ 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<Ⅱ 主題図> テーマがしぼられた地図	<Ⅲ 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図
B(1)生活文化の多様性と国際理解	4						地域の生活文化の特徴を理解するために、現在の主題図と歴史を示す主題図とを、関連付けて、読み取ることができる。 例) ラテンアメリカのキリスト教文化の特徴を理解するために、宗教の世界的な分布図と、植民地時代の地図を関連付けて、宗教の伝播を読み取ることができる。 (中(読図)-C13(Ⅱ))	
	5						地域の変化を、複数年次の地図を比較して、読み取ることができる。 例) アメリカ合衆国の州別の製造業従事者数の複数年次の地図を比較して、製造業が盛んな地域の変化を、読み取ることができる。 (中(読図)-C8(Ⅱ))	
	6						複数の主題図の分布の重なりから、その主題図の関連性を、読み取ることができる。 例) 1人あたりGNIや1人あたり工業付加価値額の高いところの重なりから、経済水準と工業の特徴の関係を読み取ることができる。 例) 産業別人口構成の主題図の第3次産業が多い地域と、1人あたり国民総所得が多い地域の重なりから、経済水準と産業構造の関係を読み取ることができる。 (中(読図)-B10(Ⅱ))	
	7						*主題図から、分布が規則的でない場所を見つけ、その要因を理解するために、別の主題図の情報と関連付けて、読み取ることができる。 例) 等温線の分布が緯線と平行にならない場所を等温線図から見つけ、その要因を理解するために等高度図や海流図などと関連付けて、読み取ることができる。	
	8						*主題図の情報を、位置を確認した景観写真と関連付けて、読み取ることができる。 例) 世界の気温の年較差を示した主題図を、おおよそ同緯度のヨーロッパ西部とロシア東部の都市の1月の景観写真と関連付けて、大陸の西側の方が東側よりも年較差が小さく冬でも暖かいことを、読み取ることができる。 例) 世界の地震の主題図を、Google Earth等で位置を確認した複数の都市の建築景観と関連付けて、高層ビルが林立する都市は地震の少ない地域にあることを、読み取ることができる。 (中(読図)-B10(Ⅰ))	
	9						*主題図で、別の凡例に区分されている地域をいくつか選び、それらの地域の景観写真を比較して、相違点を読み取ることができる。 例) 世界の農業地域の主題図で、自給的農業と企業的農業が行われている地点をいくつか選び、[Google Earth]でその地点の景観写真を表示して、規模の大きさや作業の機械化の違いを読み取ることができる。 (中(読図)-B10(Ⅰ))	
	10						*主題図が示していることが、日常生活にどのように現れているかを、位置を確認した景観写真と関連付けて、読み取ることができる。 例) 食生活に対する宗教の影響を理解するために、世界の宗教分布図を、宗教に配慮したメニューがある海外のファストフード店の写真と関連付けて、読み取ることができる。 例) 主食と気候の関係性について理解するために、世界の主食や気候区分の主題図などを、ある国の代表的な料理の写真と関連付けて、読み取ることができる。	
	1						広がりや位置関係や *都市圏の土地利用や凡例から、その都市の特色を読み取ることができる。 例) 主題図からサヘル地域の砂漠化を、読み取ることができる。 例) 複数年次の衛星画像を比較して、アマゾンの森林破壊の変化を読み取ることができる。 (中(読図)-C8(Ⅱ))	
	2						複数の視点で地域を読む 取り上げる地球的課題について持続可能な社会づくりの方向性を理解するために、統計データから得た情報と、一般図から得た他地域との位置関係を関連付けて、読み取ることができる。 例) 事例とする地域の人口動態を理解するために、移民や転入者の規模や流れの統計や、統計ダッシュボードの人口ピラミッドの推移と、一般図から得た移民の出身地域や転入先との位置関係を関連付けて、読み取ることができる。 (中(読図)-C12(Ⅰ))	複数の視点で地域を読む *他者が作成した地球的課題についての位置関係を示した構造図などから、各地域の地理的事象間の繋がりを読み取ることができる。 (中(読図)-A1(Ⅱ))
	3						複数の視点で地域を読む 取り上げる地球的課題の背景を理解するために、複数の主題図を比較・関連付けして、様々な面・角度から読み取ることができる。 例) 民族紛争(コンゴ紛争、ルワンダ内戦など)の背景を、言語・宗教の分布図や、鉱産資源の分布図、1人あたりGNIの世界地図などの主題図を比較・関連付けして、様々な面・角度から読み取ることができる。 例) サヘル地域の砂漠化の背景を、乾燥地域における土地荒廃の地域別要因の資料図や、砂漠化と都市の人口規模を重ねた主題図、人口増加率、気候区分図など主題図を比較・関連付けして、様々な面・角度から読み取ることができる。 例) 移民・難民に関わる諸課題の背景を、難民の発生と移動に関する主題図と、送出国と受入国の経済水準を示す1人あたりGNIの主題図などを比較・関連付けながら、様々な面・角度から読み取ることができる。 (中(読図)-C12(Ⅱ))	
4						複数の視点で地域を読む 取り上げる地球的課題について持続可能な社会づくりの方向性を理解するために、一般図の位置や地形などの特徴と、主題図とを関連付けて読み取ることができる。 例) ツバルの地球温暖化の影響について、世界地図による位置や大縮尺の一般図による地形の特徴の情報を、平均海面水温の主題図と関連付けて読み取ることができる。 (中(読図)-C13(Ⅱ))		
5						*地球的課題どうしの関係性を理解するために、複数の主題図や統計資料を関連付けて読み取ることができる。 例) 食料問題と地球環境問題の関係性を理解するために、北アメリカの農業、ブラジルの肉牛肥育や大豆生産、森林減少や生物多様性などに関する複数の主題図と穀物の使われ方などの統計資料を関連付けて、経済成長に伴う肉類需要の増加が地球環境問題に与える影響を読み取ることができる。 (中(読図)-C12(Ⅱ))		
6						*取り上げる地球的課題について、複数の主題図や統計資料から一見矛盾するような情報を発見し問いをたてながら、読み取ることができる。 例) 食料問題について、「[ハンガーマップ]と穀物自給率の主題図を比較し、穀物自給率が高いのに栄養不足人口割合が多い国を発見し、「なぜ食料生産は十分なのに、栄養不足の人たちが沢山いるのだろうか?」という問いをたてながら、読み取ることができる。 *取り上げる地球的課題の解決に向けた国際的な合意形成の方法を理解するために、地図や統計資料などから情報を読み取り、議論することができる。 例) 地球温暖化対策の国際的な合意形成の方法を理解するために、世界の二酸化炭素排出量の国別1人あたり排出量と国別総排出量の違いや、先進国と発展途上国の二酸化炭素排出量総量の推移に関するグラフなどを読み取り、議論することができる。 (中(読図)-C12(Ⅱ))		
7						*取り上げる地球的課題が生じる背景やそれが進むことによる問題を理解するために、主題図とWebGISを関連付けて読み取ることができる。 例) 森林破壊や氷河減少の推移を理解するために、地球的課題の分布や世界平均気温を示す主題図と「Google Earth」のタイムラプスで示される地域の変化を関連付けて、読み取ることができる。 (中(読図)-C12(Ⅱ))		
8						*取り上げる地球的課題を解決する方向性を理解するために、主題図をWebGISや統計資料と関連付けて読み取ることができる。 例) 食糧問題の解決の方向性を理解するために、日本の食料輸入の主題図や統計と、WebGIS「The Global Metabolism Initiative」で重ねて表示される農作物の生産地と土地の劣化地域とを、関連付けて読み取ることができる。		
9								

* 学習指導要領(地理総合)に直接的には記載されていないが、社会人にとって有用と考えられる技能

- 学習指導要領(地理総合)内に例示がなくとも、文意から扱うべきと考えられる学習活動については*マークを付していない。
- 学習指導要領(地理総合)内に明示がないが、社会人にとって有用で、かつ中学で既習の学習項目については、*マークと中学校との関連を示すマークの両方を付している。

小見出しの色

- 情報全体の傾向性を踏まえて
- 必要な情報を選んで
- 複数の情報を見比べたり結び付けたりして
- 資料の特性に留意して

中学との関連

- 中(読図)-A1(a) 中学の技能を反復的に活用
- 中(読図)-A2(e) 中学の技能をより発展

青字：学習活動例

イ. 図の種類別

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』

(2) 情報を読み取る技能 《読図》

ア. 地図の要素別

学習指導要領の中項目	<a 方位>	<b 記号>	<c 縮尺>	<d 高さ>	<e 図法>	<I 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<II 主題図> テーマがしぼられた地図	<III 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図	
C(1) 自然環境と防災	1		* 自然災害の危険性などを理解するために、市街地と非居住地の区別や、鉄道・道路網、市町村の人口規模などを記号から読み取ることができる。	* 縮尺に応じた距離感覚を持つことで、避難や災害救助に必要な時間を、地図から読み取ることができる。					
	2								
	3								
	4								
	5								
	6								
	7	* 地理院地図3D立体図などを読み取る際に、任意の方向から閲覧できる長所を認識したうえで、方位に留意しながら読み取ることができる。		* デジタル地図の、異なる内容の地図を縮尺をそろえて並置させる機能に習熟して、異なる年次・異なる地域・異なるテーマでの比較を通して読み取ることができる。					
	8								

* 学習指導要領(地理総合)に直接的には記載されていないが、社会人にとって有用と考えられる技能

- ・学習指導要領(地理総合)内に例示がなくとも、文意から扱うべきと考えられる学習活動については*マークを付していない。
- ・学習指導要領(地理総合)内に明示がないが、社会人にとって有用で、かつ中学で既習の学習項目については、*マークと中学校との関連を示すマークの両方を付している。

小見出しの色

- 情報全体の傾向性を踏まえて
- 必要な情報を選んで
- 複数の情報を見比べたり結び付けたりして
- 資料の特性に留意して

中学との関連

- 中《読図》-A1(a) 中学の技能を反復的に活用
- 中《読図》-A2(e) 中学の技能をより発展

青字：学習活動例

イ. 図の種類別

学習指導要領の中項目	<a 方位>	<b 記号>	<c 縮尺>	<d 高さ>	<e 図法>	<I 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<II 主題図> テーマがしぼられた地図	<III 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図	
C(1) 自然環境と防災	1		* 自然災害の危険性などを理解するために、市街地と非居住地の区別や、鉄道・道路網、市町村の人口規模などを記号から読み取ることができる。	* 縮尺に応じた距離感覚を持つことで、避難や災害救助に必要な時間を、地図から読み取ることができる。					
	2								
	3								
	4								
	5								
	6								
	7	* 地理院地図3D立体図などを読み取る際に、任意の方向から閲覧できる長所を認識したうえで、方位に留意しながら読み取ることができる。		* デジタル地図の、異なる内容の地図を縮尺をそろえて並置させる機能に習熟して、異なる年次・異なる地域・異なるテーマでの比較を通して読み取ることができる。					
	8								

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』

(2) 情報を読み取る技能 《読図》

ア. 地図の要素別

学習指導要領の中項目	<a 方位>	<b 記号>	<c 縮尺>	<d 高さ>	<e 図法>	<I 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<II 主題図> テーマがしぼられた地図	<III 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図
9						WebGISと地理院地図と *地理院地図の空中写真や今昔マップなどを通して、大規模な地震・津波災害を受けた地域の復興や新たな防災対策の工夫を読み取ることができる。 例) 東日本大震災における岩手県宮古市田老地区の高台への集団移転などの工夫を読み取ることができる。 (中(読図)-C11(1))	GISと組み合わせて読む *プレート境界型と直下型の地震の違いを理解するために、WebGISを用いて過去の複数の地震のデータを表示し、比較しながらそれぞれの特徴を読み取ることができる。 例) 「震度データベース検索(気象庁)」などを活用する。	
	10							
C(2)生活圏の調査と地域の展覧	1	目的に応じた 現地調査 *生活圏の観察・野外調査を行う前に、目的に応じた観察場所を、地図からいくつか読み取ることができる。 例) 土砂災害について調査を行う前に、生活圏にある急傾斜地をいくつか候補地として、地図から読み取ることができる。				地形図と地理院地図 地域の課題や将来像などについて理解するために、同一範囲の新旧地形図を比較して、地形や土地利用などの変化を読み取ることができる。 例) 地域の防災対策を考えるために、「今昔マップ」で新旧地形図を比較して、現在住宅地になっているところが、かつては水田や池だったことを読み取ることができる。 (中(読図)-C11(1))	位置関係や広がりを読む *生活圏の行政の政策を、地図から読み取ることができる。 例) 市町村作成の観光パンフレットや、子育て支援に関する地図、パークアンドライドに関する地図などから、行政の地域政策を読み取ることができる。	
	2	デジタル地図の活用 *デジタル地図におけるレイヤーの操作(要素の削除および重ね合わせ)に習熟して、記号(要素)どうしの関係を考えながら読み取ることができる。 例) 「MY CITY FORECAST」を用いて、身近な地域の人口分布とコンビニ、スーパー、病院などの分布を重ね合わせ、生活利便性の地域差について読み取ることができる。					GISと組み合わせて読む WebGISを用いて、複数の情報を比較することで、生活圏の特徴を読み取ることができる。 例) WebGIS「JSTAT MAP」を活用して、高齢者人口の割合が大きい地域の人口密度の特徴を、読み取ることができる。 (中(読図)-C8(II))	
	3						WebGISを用いて、生活圏の変化の様子を、地図から読み取ることができる。 例) WebGIS「ひなたGIS」を活用して、地域の年代別人口比率の変化を、地図から読み取ることができる。	
	4						WebGISを用いて、解決すべき課題を抱えている地域を、読み取ることができる。 例) WebGIS「MY CITY FORECAST」と「JSTAT MAP」を併用して、高齢者人口の割合が大きいのに公共交通機関が徒歩圏内にない地域を、読み取ることができる。	
	5						WebGISを用いて、課題の解決につながる情報を読み取ることができる。 例) WebGIS「MY CITY FORECAST」、「JSTAT MAP」、「ジオグラフ」などを用いて、公共交通機関が不足している地域を通る新しいバスルートの適地を、読み取ることができる。	
	6	適切な作図を読み取る *他の生徒が作成した地図と自分の作成物を比較しながら、方位記号の記載など適切な表現ができていないかについて読み取ることができる。	適切な作図を読み取る *他の生徒が作成した地図と自分の作成物を比較しながら、記載されている記号の情報量や、記号の強調・矮小化の程度が適切であるかについて、読み取ることができる。	適切な作図を読み取る *他の生徒が作成した地図と自分の作成物を比較しながら、適切な縮尺・範囲で表現ができていないか、スケールバーなどを記載しているかについて、読み取ることができる。	適切な作図を読み取る *他の生徒が作成した地図と自分の作成物を比較しながら、高さの強調やそれに伴う注釈記号など必要に応じて適切な分りやすい表現ができていないかについて、読み取ることができる。			適切な作図を読み取る *生活圏がかかえる課題とその背景を、自分や他の生徒が作成した紙地図やWebGISから、読み取ることができる。 例) 高齢者割合が高い地域や交通網が強調表示されている他の生徒の略地図を見て、諸施設へのアクセスの困難さを伝えることが目的ではないかと推測することができる。 (中(読図)-A1(III))
高校修了までに身につけておきたい技能	*探究課題に応じた情報を、紙地図やデジタル地図から、向きや角度などの視点や、普段見慣れている地図・地球儀との違いに留意しながら、大陸や国、都市などの位置関係を円滑に読み取ることができる。	探究課題に応じた情報を、紙地図やデジタル地図から、記号どうしの関係性をふまえながら位置や分布を読み取ることができる。 *デジタル地図における記号(要素)と記号(要素)を分解・統合する操作に習熟して、記号(要素)どうしの関係を考えながら円滑に読み取ることができる。 *紙地図やデジタル地図から読み取った情報をもとに、実際の景観を大まかに想像できる。	探究課題に応じた情報を、紙地図やデジタル地図から、縮尺に応じて距離、範囲、地図から伝わる印象が変わることに留意しながら、場所間の相対的な位置関係や分布などを読み取ることができる。 *デジタル地図における複数の図の縮尺をそろえる操作に習熟し、双方を比較して情報を円滑に読み取ることができる。	*探究課題に応じた情報を、紙地図やデジタル地図から、等高線や断面図、3D立体地形図などの特徴に留意しながら、地域内の土地の起伏や、複数の地域間の土地の起伏の異同を円滑に読み取ることができる。	探究課題に応じた情報を、紙地図やデジタル地図から、図法に応じて距離、範囲、地図から伝わる印象が変わることや、普段見慣れている地図・地球儀との違いに留意しながら読み取ることができる。 自らが探究する地域の全体的な傾向を把握したり、解決の方向性を模索するために、地域の規模に留意して別の地域と比較・関連付けをしながら読み取ることができる。	一般図から目的に応じた情報を適切に抽出し、主題図やGIS等の情報と関連付けながら、ある地域の自然環境(自然条件)・社会環境(社会条件)やその変容を読み取ることができる。 自らが探究する地域の全体的な傾向を把握したり、解決の方向性を模索するために、地域の規模に留意して別の地域と比較・関連付けをしながら読み取ることができる。	主題図やGIS等を用いて、ある地域の自然環境(自然条件)・社会環境(社会条件)やその変容を複数の資料から読み取り、それらの情報の比較・関連付けを通して多面的・多角的に地域性を見出すことができる。 自らが探究する地域の全体的な傾向を把握したり、解決の方向性を模索するために、地域の規模に留意して別の地域と比較・関連付けをしながら読み取ることができる。	*他者が作成した略地図について、地理的な見方・考え方を活用しながら情報を読み取ることができる。 *他者が作成した略地図について、作成の目的・意図等の背景や、より適切な表現方法を批判的にみるために、選択・捨棄されている情報や、強調・矮小化されている情報等を読み取ることができる。 *自らが作成した略地図の比較を通して、自分の作成物の特徴や改善点などを客観的に捉え、自己の学習を調整したり創造性を育むことができる。

* 学習指導要領(地理総合)に直接的には記載されていないが、社会人にとって有用と考えられる技能
 ・学習指導要領(地理総合)内に明示がなくとも、文意から扱うべきと考えられる学習活動については*マークを付していない。
 ・学習指導要領(地理総合)内に明示がないが、社会人にとって有用で、かつ中学で既習の学習項目については、*マークと中学校との関連を示すマークの両方を付している。

小見出しの色 情報全体の傾向性を踏まえて
 必要な情報を選んで
 複数の情報を見比べたり結び付けたりして
 資料の特性に留意して

中学との関連 中(読図)-A1(a) 中学の技能を反復的に活用
中(読図)-A2(e) 中学の技能をより発展

青字：学習活動例

イ. 図の種類別

マトリクス表 A

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』

(3) 情報をまとめる技能 《作図・描図》

ア. 地図の要素別

学習指導要領の中項目	<a 方位>	<b 記号>	<c 縮尺>	<d 高さ>	<e 図法>	<I 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<II 主題図> テーマがしぼられた地図	<III 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図	
中学校修了までに身につけておきたい技能	・16方位を念頭に置きながら、大陸や国、都市などの位置関係を大まかに捉えられる地図を描くことができる。 ・基準とした地点（都市）を中心に、正しい位置関係で地図を描くことができる。	・地図記号を活用して凡例を示しながら、地域の特徴を端的に表現する地図を描くことができる。 ・タブレットを活用し、自分でアイコンを設定して視覚的に捉えやすい地図を作成することができる。	・目的に応じた地図を描くために、縮尺を自分で選択、設定することができる。	・等高線をもとに、断面図を描いたり、着色したりするなどして、土地の傾斜や起伏の様子を表現することができる。	・目的に合う図法を選択して、伝えたいテーマを適切に表現した地図を描くことができる。	・紙面やタブレットで、地域の全体像を視覚的に捉えやすい地図にまとめることができる。	・紙面やタブレットで、統計資料や地理情報システムを活用しながら、地域の特徴を表す主題図を描くことができる。	・紙面やタブレットで、おおよその形や特徴的な事象を捉えた世界地図や日本地図を描くことができる。	
A(1) 地図や地理情報システムと現代世界	1	デジタル地図の活用 *デジタル地図には、道案内などの便利な機能を追加できるものがあることを知る。 例) [Google Map] など。	デジタル地図の活用 デジタル地図を、表示する対象の位置関係や範囲、縮尺を適切に設定して、表示することができる。			地図(SIS)の活用 *デジタル地図のツールを用いて、書き込みをすることができる。 例) 地理院地図など。	主題図の基礎 紙の地図上に統計情報をのせて、分布図や階級区分図等の主題図を作成することができる。 (中「作図」-B5「II」)	基礎資料としての作図・描図 *世界地図(世界のメンタルマップ)を自分なりに描くことができる。 (中「作図」-B7「III」)	
	2	デジタル地図の活用 *デジタル地図には、記入した情報を他者に共有できる機能を持つものがあることを知る。 例) [Google Map] など。	デジタル地図の活用 *デジタル地図で、2つの地域を縮尺を揃えて並べて表示することができる。				主題図の基礎 *デジタル地図上のレイヤーに情報を加えて、分布図や階級区分図等の主題図を作成することができる。 例) 地理院地図に自然災害伝承碑の分布を重ねて表示することができる。 (中「作図」-B13「II」)		
	3	地理院地図と *デジタル地図には、表示要素を自分で細かく設定できる機能を持つものがあることを知る。 例) 地理院地図Vectorなど。 (中「作図」-B12「b」)		地理院地図と *地理院地図の「ツール」を使って、断面図を作成できる。 (中「作図」-B13「d」)				統計地図の作図・描図 統計地図を作成する際に、適切な表現方法を選択することができる。 (中「作図」-B6「II」)	
	4	目的に応じた作図・描図 *方位が通常と異なる表現(南が上など)の地図を目的に応じて作成できる。 (中「作図」-A6「a」)				目的に応じた作図・描図 *目的に応じて適切な図法を選び、中心となる緯度・経度を設定して作図することができる。 (中「作図」-B12「e」)			
	5					目的に応じた作図・描図 *面の着色で表記する主題図を作成する際には、正積図法の地図を選ぶ必要があることを知る。 例) 人口が1億人以上の国の分布図を作成する際に、正積図法の地図を選ぶ必要があることを知る。			
	6					目的に応じた作図・描図 *図法の特徴に応じて、地図中に最短距離のルートを記入することができる。 例) 正距方位図法の地図に、図中の中心点の都市から任意の点への最短距離の航空路・航路を書き込むことができる。 例)メルカトル図法の地図に、地球儀と比較しながら、航空機の最短距離やコンテナ船の等角航路を書き込むことができる。			
	7					目的に応じた作図・描図 *さまざまな図法の世界地図を描くことができるWebサイトがあることを知る。 例) [G.Projector] など。			
	8							統計地図の作図・描図 紙の白地図やWebGISを活用して、追究する主題に関わる内容の統計年次が異なる複数の主題図を作成することができる。	
B(1) 生活文化の多様性と国際理解	1							分類整理した作図・描図 地理的環境と人々の生活・文化がどのように関係しているかについて、略地図に要約・強調してまとめて表現することができる。 例) いくつかの国の郷土料理の写真と「世界の主な食べ物」の主題図などを関連付けて、略地図中に料理名・主な食べ物・気候の特徴などを着色や文字情報でまとめることができる。	
	1							分類整理した作図・描図 複数の地域の地理的事象がどのように関わって地球的問題が生じているかを、位置関係と共に示した構造図などで示すことができる。 例) 地球温暖化の原因や、結果として引き起こされること、地域間でどのように影響しているかを文字や矢印等の記号を用いてまとめることができる。	
B(2) 地球協力の国際的課題と	1							分類整理した作図・描図 地域で予想される災害の危険性を、複数のハザードマップをもとに、自然条件や社会条件によって分類し、わかりやすい略地図を作成することができる。 例) 地域で予想される洪水や地震、土砂災害などの危険性を、複数のハザードマップをもとに地形などの自然条件や、住宅密集度合いなどの社会条件(住宅密集度合いなど)によって分類し、見る人に即座に伝わるような略地図上にまとめて表現することができる。	
	2	地形図と地理院地図 *地理院地図などで3D立体地図を作成する際、方位に留意しながら、目的・用途に応じた方向で作図することができる。 例) 兵庫県南部地震が起きた神戸市や、新潟中越地震が起きた旧山古志村などの3D立体地図を、地形がわかりやすい角度や、建物や道路などの構造物が確認できる方位・視点で表示することができる。	地形図と地理院地図 *地理院地図で、ズームレベルを調整しながら、目的に応じた情報が表示された地図を作成することができる。 例) 兵庫県南部地震が起きた神戸市や、新潟中越地震が起きた旧山古志村など、新潟中越地震が起きた旧山古志村などの構造物が確認できるズームレベルで表示することができる。	地形図と地理院地図 *地理院地図の「自分で作る色別標高図」の機能を用いて、地形の特徴がわかりやすい標高別着色の地図を作成することができる。 例) 東北地方太平洋沖地震の被害の特徴を知るために、リアス海岸の地域と海岸平野の地域を同じ標高別着色で作図して、比較することができる。	地形図と地理院地図 *地理院地図の「ツール」を使って、地形の特徴がわかりやすいように高さを強調した3D立体図を作成することができる。 例) 東北地方太平洋沖地震の被害の特徴を知るために、リアス海岸の地域と海岸平野の地域を同じように高さ強調した3D立体図にして比較することができる。	基礎資料としての作図・描図 大縮尺の地図に、土地利用の違いなどに適した着色や文字情報の追加することができる。 例) [地理院地図] から出力した地形図に、自然堤防と後背湿地を、水田・住宅地・畑に分けて着色することができる。 例) [今昔マップ] から出力した新旧地形図を見比べて、両方にある集落に「古くからの集落」などのように書き入れることができる。	基礎資料としての作図・描図 *WebGISを用いて、ハザードマップや避難場所、自然災害伝承碑の分布などを重ね合わせた主題図を作成することができる。 例) 「重ねるハザードマップ」を用いて避難場所、自然災害伝承碑の分布などを重ね合わせた主題図を作成することができる。	分類整理した作図・描図 地域を、複数のハザードマップをもとに、予想される災害の特徴によって区分し、主題図を作成することができる。 例) 調査地域を、洪水や地震、土砂災害のハザードマップをもとに「浸水被害を受けやすい低地、地震で家屋倒壊が想定される住宅密集地、土砂災害が予想される傾斜地」などに区分して、主題図を作成することができる。	

* 学習指導要領(地理総合)に直接的には記載されていないが、社会人にとって有用と考えられる技能
 ・学習指導要領(地理総合)内に例示がなくとも、文意から扱うべきと考えられる学習活動については*マークを付していない。
 ・学習指導要領(地理総合)内に明示がないが、社会人にとって有用で、かつ中学で既習の学習項目については、*マークと中学校との関連を示すマークの両方を付している。

小見出しの色 基礎資料として
 分類・整理して
 情報を受け手に向けた分かりやすさに留意して

中学との関連 中「作図」-B5「II」 中学の技能を反復的に活用
中「収集」-B12「e」 中学の技能をより発展

青字：学習活動例

イ. 図の種類別

マトリクス表 A

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』

(3) 情報をまとめる技能 《作図・描図》

ア. 地図の要素別

学習指導要領の中項目	<a 方位>	<b 記号>	<c 縮尺>	<d 高さ>	<e 図法>	
C(1) 自然環境と防災	3					
	4					
C(2) 生活圏の調査と地域の展望	1		目的に応じた現地調査	*学校周辺など身近な地域の観察・野外調査を行う前に、縮尺から経路を歩く時間を想定しながら、目的に応じた大まかな経路を自ら設定しルートマップを描くことができる。		
	2					
	3					
	4					
	5	探究する地域に関する地理情報を地図化する際に、必要に応じて方位を記載することができる。	*探究する地域に関する地理情報を地図化する際に、読み手に内容が伝わりやすいように記載する記号を取捨選択したり、強調したりすることができる。	情報が伝わりやすい作図・描図	*探究する地域に関する地理情報を地図化する際に、読み手に誤解が生じないような縮尺を設定することができる。	
	6	探究する地域に関する地理情報を地図化する際に、正しい位置関係で地図を描くことができる。	*探究する地域に関する地理情報を地図化する際に、読み手に誤解が生じないよう、記号の凡例を位置や単位、文言、色彩表現に注意しながら適切に設定することができる。			
	7	*探究する地域に関する地理情報を地図化する際に、読み手に内容が伝わりやすいように必要に応じて地図の方位を柔軟に変えて表示することができる。				
	8					
	9					
	10					
	11					
高校修了までに身につけておきたい技能	*探究課題に応じた地図を作成・表示する際に、目的に応じて向きや角度などの視点を変えた地図を作成したり、必要に応じて適切に地図に方位情報を記載できる。	*探究課題に応じた地図を作成・表示する際に、地図に記載する記号を目的に応じて取捨選択、強調したり、色彩表現や凡例などを適切に表現できる。	*探究課題に応じた地図を作成・表示する際に、目的に応じて縮尺を自分で選択・設定したり、必要に応じて適切に地図に記載できる。	*探究課題に応じた地図を作成・表示する際に、デジタル地図なども活用しながら目的に応じて断面図を描いたり、高さの着色・強調を行うなどして、土地の高低を多様かつ適切に表現できる。	*探究課題に応じた地図を作成・表示する際に、球面と平面の違いなどをふまえながら、目的に応じて適切に表現できる図法を選択して描くことができる。	

* 学習指導要領(地理総合)に直接的には記載されていないが、社会人にとって有用と考えられる技能

- 学習指導要領(地理総合)内に例示がなくとも、文意から扱うべきと考えられる学習活動については*マークを付していない。
- 学習指導要領(地理総合)内に明示がないが、社会人にとって有用で、かつ中学で既習の学習項目については、*マークと中学校との関連を示すマークの両方を付している。

小見出しの色

- 基礎資料として
- 分類・整理して
- 情報を受け手に向けた分かりやすさに留意して

中学との関連

- 中〈作図〉-B5〈Ⅱ〉 中学の技能を反復的に活用
- 中〈収集〉-B12〈e〉 中学の技能をより発展

青字：学習活動例

イ. 図の種類別

<Ⅰ 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<Ⅱ 主題図> テーマがしぼられた地図	<Ⅲ 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図
	地域の災害危険情報を複数のWebGISを用いて分類・整理し、持続可能な自然災害対策を考えて、紙地図やWebGIS上にまとめて表現することができる。	地域の災害危険情報を、過去の災害の資料をもとにして、わかりやすく略地図上にまとめて表現できる。
	例) 地域の災害危険状況を地理院地図やGoogleストリートビュー、重ねるハザードマップなどを用いて分類し、多くの住民の納得が得られるような自然災害対策を考えて、WebGIS上にまとめて表現することができる。	例) 地域について、どのような地形の場所に、どのような種類の被害がどの程度生じたか、それをふまえてどのような対策がとられたかなどについて、見る人に即座に伝わるような略地図上にまとめて表現することができる。
	*ハザードマップを見て、任意の地点からの避難ルートを記入することができる。	
	WebGISの種類によって、作図できる地域の範囲やデータの種類の種類、表現方法が異なることを知る。	
	例) [JSTAT MAP]：日本の地域統計データ(e-Statなど)から主題図や統計地図を作成することができる。 [RESAS]：日本の産業構造や人口動態、人の流れなどのデータを使った主題図や統計地図を作成することができる。 [ジオグラフ]：日本の各種統計データをメッシュ化して、3次元グラフで表示させることができる。 [MANDARA]：世界や日本の統計データ(自分で用意する)から主題図や統計地図を作成することができる。	
	探究する地域の課題やそれに関する諸事象を把握するために、WebGIS等を活用しながら地域の全体像が読み取りやすい地図を作成することができる。	聞き取り調査で聞き取った情報を、必要に応じ略地図に整理することができる。
	例) [MY CITY FORECAST]を用いて、地域の医療施設の分布に関わる課題を把握するために、人口分布や交通網などさまざまなレイヤーを重ねて、地域の全体像が読み取りやすい地図を作成することができる。	
		情報が伝わりやすい作図・描図
	紙の白地図やWebGISなどを通して作成した地図から、地域がかかえる課題とその背景についての仮説を立てることができる。	
	*探究する地域について、入手したデータや統計をWebGISに取り込み、分類・整理して、必要な情報を重ね合わせて表示させることができる。	
	例) 探究する地域について、地理院地図にWebGISに位置情報のついたcsvファイルを取り込み整理して、必要な情報を表示させることができる。	
	*探究する地域について、地理院地図など豊富なレイヤーを持つデジタル地図を操作して、さまざまな視点から見た情報を選択、重ね合わせ、整理して表示させることができる。	情報が伝わりやすい作図・描図
		*生活圏地域の特徴や課題などについて、伝えたい内容を効果的に説明するために特定の情報を要約・強調した略地図を作成することができる。
	表現の分かりやすさなどを他者に配慮しながら、視覚的・直感的に分かりやすい主題図を、紙地図やWebGISで作成することができる。	
	入手した情報をまとめる際に、地図情報を簡潔な文章に要約して説明することができる。	
	調査した結果を、地図を用いたポスターやプレゼンテーションソフトのスライドに分かりやすくまとめることができる。	
	地図化された情報等を基にして考えたことを文章にまとめ、それをもとに効果的に説明や議論をすることができる。	
	現地調査で得た情報や地図から読み取れる事実に、自分で解釈したことを加えて、意見を述べたり議論をすることができる。	
	現地調査や地図を通して考えた地域課題の改善案をポスターやスライドなどにまとめ、学校内や地域で発表をすることができる。	
	統計資料やGIS等を活用しながら、扱うデータの特性に応じた表現方法を用いて、地域の特色や地域間の関係性などが読み取れる主題図を描くことができる。	探究課題について効果的に説明するために任意の情報を適切に要約・強調した略地図を作成できる。
	*さまざまな視点から見た地域の特色や、地域間の関係性などが読み取れる主題図を、過不足ない適切な情報量で描くことができる。	*情報を要約・強調した略地図を、過不足ない適切な情報量で描くことができる。
		*おおよその形を捉えた世界地図や日本地図を描くことができる。

マトリクス表 A (小中高連結 + 社会人) _ 暫定版

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』

★小学校・中学校・高等学校 修了までに身に付けておきたい技能 および 社会人になった時に役立つ場面の例 (2024年11月暫定版)

* 学習指導要領(地理総合)に直接的には記載されていないが、社会人にとって有用と考えられる技能
 ・学習指導要領(地理総合)内に例示がなくとも、文意から扱うべきと考えられる学習活動については*マークを付していない。

ア. 地図の要素別

イ. 図の種類別

	<a 方位>	<b 記号>	<c 縮尺>	<d 高さ>	<e 図法>	<Ⅰ 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<Ⅱ 主題図> テーマがしぼられた地図	<Ⅲ 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図	
情報収集する技能 (収集・選択)	小学校社会科 修了までに身に付けておきたい技能	・方位磁針や地図を用いて方位や位置を確認しながら地域を実際に歩いたり、調査・見学したりできる。	・地図に示された記号を手がかりに、土地利用、建物や交通の様子などに着目して調査・見学したり、必要な地図を地図帳などから選択したりできる。	・地図に示されている地域の範囲や詳しくさが手がかりにして、知りたい情報が読み取れる縮尺の地図を、地図帳から選択できる。	・土地の高さに着目して地域を実際に歩いたり、調査・見学したりできる。		・調べたい地域や知りたいことがらで示されている一般図を収集したり、地図帳から選択したりすることができる。	・調べたいことがらに関する主題図を収集したり、地図帳から選択したりすることができる。	
	中学校社会科 修了までに身に付けておきたい技能	・地域調査で実際の方位と地形図の方位を照らし合わせながら情報を収集することができる。	・地域調査で、実際の現地の様子と地図上の記号を照らし合わせながら地域の特色となる情報を収集できる。 ・紙地図の凡例や、デジタル地図の表示可能要素を確認して、課題の設定や追究に適した記号が載っている紙地図やWebサイト等を収集・選択することができる。	・課題の設定や追究に適した縮尺や範囲の地図を収集・選択したり、デジタル地図の縮尺や範囲を調整したりできる。	・地域調査で、実際の高さや傾斜と地形図の等高線を照らし合わせながら情報を収集することができる。	・地図帳をはじめ様々な文献や資料、統計情報に関するWebサイト等を活用して、必要な情報が得られる一般図を収集・選択したり、地域の大観や地域調査に必要な情報を収集したりできる。	・地図帳をはじめ様々な文献や資料、統計情報に関するWebサイト等を活用して、必要な情報が得られる主題図を収集・選択したり、課題の設定・追究に必要な情報を収集したりすることができる。		
	高校 地理総合 修了までに身に付けておきたい技能	*探究課題に応じた情報を収集する際に、紙地図の方位や、デジタル地図の向きや角度などの視点を適切に選択できる。	探究課題に応じた情報を収集する際に、複数の資料から課題解決に必要な情報を、効率よく選択することができる。 *探究課題に応じた情報を収集する際に、紙地図の凡例やデジタル地図のレイヤー・凡例を確認して、適・不適を選択できる。	探究課題に応じた情報を収集する際に、紙地図やデジタル地図の縮尺や範囲を選択できる。	*探究課題に応じた情報を収集する際に、紙地図やデジタル地図で等高線を確認したり、必要に応じて着色や高さ強調をしたりして、適切な高さや地形を選択できる。	探究課題に応じた情報を収集する際に、図法に関する基本的な理解をふまえて、目的にあった紙地図やデジタル地図を選択できる。	*探究課題に応じた情報を収集する際に、情報の特性や正しさに留意して、適切な一般図を、紙資料や地図帳、Webサイトから効率よく選択できる。	探究課題に応じた情報を収集する際に、情報の特性や正しさに留意して、多面的・多角的な主題図を、紙資料や地図帳、Webサイトを用いて効率よく選択できる。 追究の方向性の修正が必要になった場合には、収集の方法を柔軟に変えるなどして、粘り強く取り組むことができる。	
	社会人 になった時に役立つ場面の例	地域社会の課題(持続可能なまちづくり、防災など)や地球的課題の解決、キャリア形成(出店立地や販売企画、市場調査など)に際して、調査担当として活躍できる(正確で的確な信頼できる調査に着手・手配できる)。							
情報を読み取る技能 (読図)	小学校社会科 修了までに身に付けておきたい技能	・4方位と8方位を用いて地図から適切に方位を読み取ったり、あるものを基準にしてどちらの方位にあるかを言い表したりできる。	・地図記号や境界線などを手がかりに地図から情報を読み取ったり、索引をもとに地名を探すことができる。	・調べたいことに応じた縮尺の地図を用いて、距離のものさしを使って地図上から実際の距離を読み取ることができる。	・等高線や等高線の粗密を手がかりに、おおまかな地形の特色や傾斜の様子を読み取ることができる。	・地球儀と世界地図の違いとそれぞれの特色を知った上で、調べたいことに応じて使い分けすることができる。	・調べたい地域の一般図を用いて、都市や建物などの位置や分布、地形の特色、交通網の広がり、地域間の結びつきの様子などを読み取ることができる。	・調べたいことに応じたテーマの主題図を用いて、凡例を手がかりに知りたい情報を読み取ることができる。	
	中学校社会科 修了までに身に付けておきたい技能	・16方位を用いて地図から適切に方位を読み取ったり、大陸や国、都市などの位置関係を読み取ったりすることができる。	・地図のスケールや種類に応じて、記号や彩色、文字などを手掛かりに位置や分布など地理的事象に関する情報を読み取ることができる。 ・緯度と経度(緯線・経線)を手掛かりにして位置関係を読み取ることができる。 ・デジタル地図での記号の操作方法を知る。	・適切なスケールの地図を用いて地理的事象を読み取ることができる。 ・縮尺に留意して距離や範囲を読み取ることができる。	・等高線や等高線から土地の起伏を捉えて、おおまかな地形の特色や傾斜の様子を読み取ったり、他の情報と関連付けて地域の特色を読み取ったりできる。	・正積図、正距方位図などの図法の特色を理解し、目的に応じた地図を選択して情報を読み取ることができる。	・調べたい地域の一般図を用いて、地理的的特色を読み取ることができたり、複数の情報を総合的に関連付けて読み取ったりすることができる。	・テーマに応じた主題図の凡例を手がかりに、調べたい地域に関する情報を読み取ったり、複数の情報や資料を比較、関連付けて読み取ったりすることができる。	
	高校 地理総合 修了までに身に付けておきたい技能	*探究課題に応じた情報を、紙地図やデジタル地図から、記号どうしの関係性をふまえながら位置や分布を読み取ることができる。	*デジタル地図における記号(要素)と記号(要素)を分解・統合する操作に習熟して、記号(要素)どうしの関係性を考えながら円滑に読み取ることができる。 *紙地図やデジタル地図から読み取った情報をもとに、実際の景観を大まかに想像できる。	探究課題に応じた情報を、紙地図やデジタル地図から、縮尺に応じて距離、範囲、地図から伝わる印象が変わることに留意しながら、場所間の相対的な位置関係や分布などを読み取ることができる。 *デジタル地図における複数の図の縮尺をそろえる操作に習熟し、双方を比較して情報を円滑に読み取ることができる。	*探究課題に応じた情報を、紙地図やデジタル地図から、等高線や断面図、3D立体地形図などの特徴に留意しながら、地域内の土地の起伏や、複数の地域間の土地の起伏の異同を円滑に読み取ることができる。	探究課題に応じた情報を、紙地図やデジタル地図から、図法に応じて距離、範囲、地図から伝わる印象が変わることや、普段見慣れている地図・地球儀との違いに留意しながら読み取ることができる。	一般図から目的に応じた情報を適切に抽出し、主題図やGIS等の情報と関連付けながら、ある地域の自然環境(自然条件)・社会環境(社会条件)やその変容を複数の資料から読み取り、それらの情報の比較・関連付けを通して多面的・多角的に地域性を見出すことができる。 自らが探究する地域の全体的な傾向を把握したり、解決の方向性を模索するために、地域の規模に留意して別の地域と比較・関連付けをしながら読み取ることができる。	主題図やGIS等を用いて、ある地域の自然環境(自然条件)・社会環境(社会条件)やその変容を複数の資料から読み取り、それらの情報の比較・関連付けを通して多面的・多角的に地域性を見出すことができる。 自らが探究する地域の全体的な傾向を把握したり、解決の方向性を模索するために、地域の規模に留意して別の地域と比較・関連付けをしながら読み取ることができる。	
	社会人 になった時に役立つ場面の例	地域社会の課題(持続可能なまちづくり、防災など)や地球的課題の解決、キャリア形成(出店立地や販売企画、市場調査など)に際して、分析担当として活躍できる(多面的な視点から光を当てた深みのある分析を自ら進められる)。							
情報をまとめる技能 (作図・描図)	小学校社会科 修了までに身に付けておきたい技能	・方位を意識して地図を描いたり、白地図上に表現したりすることができる。基本的に北を上にして描くことができる。	・白地図や略地図の適切な位置に、表したいことがらに応じた地図記号を用いて表現することができる。	・実際の距離を意識して地図を描いたり、白地図上に表現したりすることができる。	・高さを意識して段彩を用いて地図を描いたり、白地図上に表現したりすることができる。	・地図記号や段彩を適切に用いて白地図や略地図上に地域の様子を表現することができる。	・表現したいテーマに応じた縮尺の白地図や略地図を用い、高さや表現したいことがらに関する凡例を作成したうえで、適切に表現することができる。	・示したい地域のおよその形や都市や事物の位置などを大まかに捉えて略地図を描くことができる。	
	中学校社会科 修了までに身に付けておきたい技能	・16方位を念頭に置きながら、大陸や国、都市などの位置関係を大まかに捉えられる地図を描くことができる。 ・基準とした地点(都市)を中心に、正しい位置関係で地図を描くことができる。	・地図記号を活用して凡例を示しながら、地域の特色を端的に表現する地図を描くことができる。 ・タブレットを活用し、自分でアイコンを設定して視覚的に捉えやすい地図を作成することができる。	・目的に応じた地図を描くために、縮尺を自分で選択、設定することができる。	・等高線をもとに、断面図を描いたり、着色したりするなどして、土地の傾斜や起伏の様子を表現することができる。	・目的に合う図法を選択して、伝えたいテーマを適切に表現した地図を描くことができる。	・紙面やタブレットで、地域の全体像を視覚的に捉えやすい地図にまとめることができる。	・紙面やタブレットで、統計資料や地理情報システムを活用しながら、地域の特色を表す主題図を描くことができる。	
	高校 地理総合 修了までに身に付けておきたい技能	*探究課題に応じた地図を作成・表示する際に、目的に応じて向きや角度などの視点を変えた地図を作成したり、必要に応じて適切に地図に方位情報を記載できる。	*探究課題に応じた地図を作成・表示する際に、地図に記載する記号を目的に応じて取捨選択、強調したり、色彩表現や凡例などを適切に表現できる。	*探究課題に応じた地図を作成・表示する際に、目的に応じて縮尺を自分で選択・設定したり、必要に応じて適切に地図に記載できる。	*探究課題に応じた地図を作成・表示する際に、デジタル地図なども活用しながら目的に応じて断面図を描いたり、高さの着色・強調を行うなどして、土地の高低を多様かつ適切に表現できる。	*探究課題に応じた地図を作成・表示する際に、球面と平面の違いなどをふまえながら、目的に応じて適切に表現できる図法を選択して描くことができる。	複数の地理情報をGIS等を活用しながら一般図に重ねて示すこと等を通して、地域の全体像が読み取りやすい地図を描くことができる。	統計資料やGIS等を活用しながら、扱うデータの特性に応じた表現方法を用いて、地域の特色や地域間の関係性などが読み取れる主題図を描くことができる。 *さまざまな視点から見た地域の特色や、地域間の関係性などが読み取れる主題図を、過不足ない適切な情報量で描くことができる。	探究課題について効果的に説明するために任意の情報を適切に要約・強調した略地図を作成できる。 *情報を要約・強調した略地図を、過不足ない適切な情報量で描くことができる。 *おおよその形を捉えた世界地図や日本地図を描くことができる。
	社会人 になった時に役立つ場面の例	地域社会の課題(持続可能なまちづくり、防災など)や地球的課題の解決、キャリア形成(出店立地や販売企画、市場調査など)に際して、プレゼン担当として活躍できる(合意形成に向けた端的で分かりやすい根拠資料の提示が行える)。							

マトリクス表 B 〈地図から習得できる『地理的な見方・考え方』〉〈高校・地理総合〉

青字：学習活動例

領域 の中項目	小見出し	〈① 位置や分布〉		〈② 場所〉		〈③ 人間と自然環境との相互依存関係〉		〈④ 空間的相互依存作用〉		〈⑤ 地域〉		
		・ 事物の位置や広がり、周囲の状況などを、地図から捉えることができる。		・ 着目する場所の特徴を、地図から捉えることができる。		・ 地図から自然環境の特徴を読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。		・ 地図から複数の場所の結びつきを読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。		・ 地図から読み取って見出した特色をもとに、着目する地域の全体像を捉えることができる。		
A (1) 地図や地理情報システムと現代世界	1) 地球上の位置と時差	1	着目する国や地域の地球上の位置や広がりを、経緯度や大陸と海洋などに着目して、地球儀や地図から捉える。 例) 複数の時差を持つアメリカ合衆国の広がりを、経度の東西差に着目して、地球儀や地図から捉える。	着目する国や地域の特徴を、経緯度や大陸と海洋、近隣の国や地域との位置関係などに着目して、地球儀や地図から捉える。 例) 世界のおもな証券取引所がある地域の特徴を、開設時間が経度によって異なることに着目して、地球儀や地図から捉える。								
		2	着目する地理的事象の位置や広がりを、地球が球面であることに着目して、地球儀や地図から捉える。 例) かつて、日本とヨーロッパ諸国の航空路線にアメリカ合衆国のアラスカ州にあるアンカレッジ空港が重要な役割を果たしていたことを地球儀や地図から捉える。									
		3	現代世界の地域構成を、絶対的な位置関係とともに、地域間、国家間といった相対的な位置関係で、地図から捉える。 例) 現代世界は、アジア、ヨーロッパなどの州から構成されることと、それらの相対的な位置関係を、地図から捉える。									
		4	着目する国や地域における地形や気候、産業、生活文化、歴史的遺産などの位置や分布を、地球儀や地図から捉える。 例) 白夜や極夜の現象がおこるノルウェーの気候や生活文化を、地図から捉える。	着目する場所の特徴を、歴史的背景と関連付けて、地球儀や地図から捉える。 例) アフリカには、直線状の国境を持つ国が多いことを、地球儀や地図から捉える。 例) 中国と北朝鮮、北朝鮮と韓国の境界の違いを、地図から捉える。								
		5	地球上の位置に着目して、地理的事象が生じる仕組みや理由を、地図や地球儀から考察する。 例) 地球儀を用いて、白夜や極夜、四季が生まれるしくみ、低緯度地域が暑くなる理由を考察する。			時差の存在が、世界の人々の生活や経済活動などにどのような影響を与えているかを、地球儀や地図から考察する。 例) 等時帯図で同じ経度でも異なる標準時を設定している国や地域がある理由を、地図から考察する。		時差の存在を生かして、地域間でどのように結びついているかを、地球儀や地図から考察する。 例) 時差を利用した世界の分業システム（インドとアメリカが連携するICT産業など）について、地球儀や地図から考察する。				
	2) 日本の位置と領域	1	四方を海に囲まれている日本の位置について、世界的視野で、地図から捉える。 例) 世界各地から相対的に見た日本の位置の特色を、地球儀や世界地図を活用して捉える。									
		2	日本の領域（日本の固有の領土である竹島や北方領土を含む）や排他的経済水域の位置や広がりを、近隣諸国との位置関係や大陸棚などに着目して、地図から捉える。	日本の領域の特色を、世界的視野から領土面積に比べて広大な領海や排他的経済水域をもつことに着目して、地図から捉える。 例) 日本の特色を、排他的経済水域が広く、そのことにより豊富な水産資源や海底地下資源を持ち、海上交通や海洋開発が進んだ地域であることに着目して、地図から捉える。								
		3		北方領土の特徴を、問題の経緯や歴史的背景に着目して、年代の異なる複数の地図から捉える。								
	3) 国内や国家間の結びつき	1	世界のおもな国際機関の加盟国の位置を地図から捉える。 例) 世界の国連未加盟国を、歴史的背景や国家間の位置関係に着目して、地図から捉える。	主な国際機関の特徴を、加盟国の人口や面積、経済規模などに着目して、地図から捉える。								
		2	観光客を送り出している国・地域と受け入れている国・地域の位置や広がりを、地図から捉える。 例) 中国の特徴を、観光に着目して、旅行者の受入数と国際観光収支を関連付けて、地図から捉える。 例) アメリカ合衆国の特徴を、文化・スポーツなどに関わる観光に着目して、地図から捉える。	国・地域の特徴を、観光に着目して、旅行者の移動や観光収支の状況を示した地図から捉える。 例) オーストラリアの観光産業の発達を、世界自然遺産の多さと関連付けて、地図から捉える。	国・地域の観光産業の発達の理由を、豊かな自然環境と関連付けて、地図から捉える。 例) 日本に東南アジアからの観光客が増加している理由を、航空便の増加と関連付けて、地図から捉える。		国・地域に外国人旅行者が多く来る理由を、政治、経済、交通網や情報通信手段の発達、グローバル化と関連付けて、地図から考察する。 例) 世界の貿易の自由化が進化するなかで、市場を確保するための工夫を、地域ごとの経済的な結びつきと関連付けて、地図から捉える。 例) EUやASEANなどは地域内の貿易の結びつきが強いことを、地図から捉える。					
		3	世界各国の貿易収支や輸出入品を地図から捉える。 例) 日本に対する貿易収支が黒字（赤字）の国を、地図から捉える。	世界各国の特徴や傾向を、貿易に着目して主な輸出入品や各国のGDPに占める輸出額の割合などを示した地図から捉える。 例) 新興国の特徴を、工業化が進み経済成長が著しいことに着目して、地図から捉える。 例) 燃料や原料の輸出が多い国の特徴を、地域的な傾向に着目して、地図から捉える。								
		4		貿易が盛んな地域の特徴を、空港や港などの社会資本の整備状況に着目して、地図から捉える。 例) 中国の特徴を、空港の貨物取扱量や港のコンテナ取扱量が増加していることに着目して、地図から捉える。								
		5										
		6	世界各国の通信手段（インターネットや携帯電話の普及率）の地域差を、地図から捉える。 例) 世界の、携帯電話契約数が固定電話契約数よりはるかに多い地域を、地図から捉える。			世界を短時間で移動するための工夫を、自然環境の改変などと関連付けて、地図から捉える。 例) パナマ運河を、海面の標高が異なる海を結び、大陸間移動の所要日数を減らす仕組みであることに着目して、地図から捉える。 例) 日本からヨーロッパへの航路を、北極海を通る場合と通らない場合の所要日数の違いに着目して、地図から捉える。		世界や日本の人、物、情報の結びつきの強さを、交通機関（道路、鉄道、航空路、航路、通信衛星、海底ケーブル網）の分布の集中と関連付けて、地図から捉える。 例) ヨーロッパの交通の特徴を、内陸部でも船舶による輸送が盛んなことと関連付けて、地図から捉える。 例) 関東地方の工業団地、アウトレットモールの分布を、高速道路網や物流センターの位置と関連付けて、地図から捉える。				
		7										
		8										
		9										

マトリクス表 B 〈地図から習得できる『地理的な見方・考え方』〉〈高校・地理総合〉

青字：学習活動例

学習指導要領の中項目	小見出し	〈1〉 位置や分布〉		〈2〉 場所〉		〈3〉 人間と自然環境との相互依存関係〉		〈4〉 空間的相互依存作用〉		〈5〉 地域〉	
		・ 事物の位置や広がり、周囲の状況などを、地図から捉えることができる。	・ 世界の人の生活文化に影響を与えている大地形の分布や広がりを、地図から捉える。	・ 着目する場所の特徴を、地図から捉えることができる。	・ 地域の特色を、人口分布と地形などの自然環境との関わりに着目して、地図から捉える。	・ 地図から自然環境の特徴を読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から複数の場所の結びつきを読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から読み取って見出した特色をもとに、着目する地域の全体像を捉えることができる。	・ 世界の人の生活文化に影響を与えている大地形の変化の様子を、複数年次の地図を比較しながら捉える。	・ 例) 最終氷期の大陸氷河の広がりを、地図から捉える。	・ 例) 世界のおもなプレートの分布と動く向き、火山・地震の分布との関わりを、地図から捉える。
B (1) 生活文化の多様性と国際理解	1) 世界の地形と人々の生活	1	世界の人の生活文化に影響を与えている大地形の分布や広がりを、地図から捉える。 例) 世界のおもなプレートの分布と動く向き、火山・地震の分布との関わりを、地図から捉える。 例) 最終氷期の大陸氷河の広がりを、地図から捉える。	地域の特色を、人口分布と地形などの自然環境との関わりに着目して、地図から捉える。 例) 南アジアの特徴を、人口密度が平野で高いことに着目して、地図から捉える。	人々の生活文化が独自性をもつ要因を、地形の特徴と関連づけて、地図から捉える。 例) グレートアーテジアン盆地の人々の生業である牧畜を、井戸の分布や地形と関連付けて、鳥瞰図から捉える。	・ 地図から複数の場所の結びつきを読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	世界の人の生活文化の特色を、地図から読み取った地形や気候などの自然環境と関連付けて、総合的に考察する。 例) 独自性や多様性に富む生活文化が発展したり変容したりする要因を、地理的環境やグローバル化したことと関連付けながら、総合的に考察する。				
		2	世界の人の生活文化に影響を与えている大地形の変化の様子を、複数年次の地図を比較しながら捉える。 例) 大陸の移動と現在の分布の様子を、地質年代の異なる複数の地図から捉える。	地域の特色を、生活文化と地形などの自然環境と関連付けて、地図から考察する。 例) オーストラリアのアボリジナルランドの特徴を、自然環境の豊かさと関連付けて、地図から考察する。	地域の自然環境を、生活に有益なように人工的に変容させてきた歴史と関連付けて、地図から捉える。 例) オランダの耕地の分布を、その多くが干拓地であることや干拓の推移と関連付けて、地図から捉える。	・ 地図から読み取って見出した特色をもとに、着目する地域の全体像を捉えることができる。					
		3	人々の生活文化に影響を与える小地形の分布や広がりを、地図から捉える。 例) 東南アジアの半島部には河川が多く、その下流部は平野が広がっていることを、地図から捉える。	似た生活文化が見られる地域の特徴を、地形と関連付けて、地図から捉える。 例) 地熱発電所や温泉などが見られる地域の特徴を、変動帯と関連付けて、地図から捉える。	生活文化の多様性を、地形の特徴の違いと関連付けて、地図から捉える。 例) リアス海岸と海岸平野が見られる地域の特徴の違いを、湾の奥行きや水深に着目しながら、地図から捉える。	・ 地図から読み取って見出した特色をもとに、着目する地域の全体像を捉えることができる。					
		4			人々の生活文化の発展の要因を、地形の改変と関連づけて、地図から考察する。 例) 海岸部で埋立地をつくって市街地を拡張する理由を、地図から考察する。 例) オランダの農業の発展の要因を、耕地の多くが干拓地であることや干拓の推移と関連付けて、地図から考察する。	・ 地図から読み取って見出した特色をもとに、着目する地域の全体像を捉えることができる。					
		5		国や地域の地域区分の特徴を、地形に着目して、地図から捉える。 例) ロシアの特徴を、ウラル山脈でヨーロッパ州とアジア州に区分されることに着目して、地図から捉える。	生活文化のまとまりの境界を、河川や山脈と関連付けて、地図から捉える。 例) ヨーロッパでは、河川や山脈が国境になっている国が多いことを、地図から捉える。	人々の生活文化を、河川交通による他地域との結びつきに着目して、地図から捉える。 例) ヨーロッパには多くの国際河川や運河があり、通航上限がかなり内陸であることを、地図から捉える。					
	2) 世界の気候と人々の生活	1	世界の人の生活文化に影響を与えている気候要素の分布や広がりを、地図から捉える。 例) 世界の年平均気温・年降水量・おもな海流の地図から、等温線の分布が緯線と並行にならないことを、地図から捉える。	地域の特色を、人口分布と気候などの自然環境と関連付けて、地図から捉える。 例) アフリカの特徴を、人口分布が乾燥気候で少ないことに着目して、地図から捉える。	生活文化が独自性をもつ要因を、気候の特徴と関連付けて、地図から捉える。 例) ヨーロッパの地中海地方は温暖であるため、保養地が多く観光業が盛んであることを、地図から捉える。	気候に適した生活文化が変容する理由を、他地域との結びつきに着目して、地図から捉える。 例) 独自性のある生活文化がグローバル化することで、ファストファッションや、ハンバーガーなどのファストフードの利用に変化していることを、地図から捉える。					
		2	人々の生活文化に影響を与える気候の分布や広がりを、地図から捉える。 例) アメリカ合衆国の年降水量と夏冬の気温、ハリケーンが発生する地域の分布を、地図から捉える。	地域の特色を、気候が人々の生活に与える影響に着目して、地図から捉える。 例) ヨーロッパは、高緯度の割に温暖な気候であることを、地形や海流などに着目して、地図から捉える。	世界各地の伝統的な衣服の特徴を、気候(降水量の多少や気温の寒暑)と関連付けて、地図から捉える。 例) 日射を防ぐ通気性のよいゆったりした服を着ている複数の地域の写真が撮影された場所を、砂漠気候の分布と関連付けて、地図から捉える。						
		3		地域の特色を、気候の異なる周囲の地域の生活文化と比べて、地図から考察する。 例) 北アフリカの砂漠地域の特徴を、熱帯雨林地域の生活文化との違いに着目して、降水量と関連付けて、地図から考察する。	生活文化の多様性を、気候の特徴の違いと関連付けて、地図から捉える。 例) ユーラシア大陸の東岸は米中心、西岸は小麦中心の食文化であることを、降水量などと関連付けて、地図から捉える。						
		4		似た生活文化が見られる地域の特徴を、気候と関連付けて、地図から捉える。 例) 地下水路などの灌漑設備がある都市の特徴を、乾燥帯の分布と関連付けて、地図から捉える。	世界各地の伝統的な住居と、その原材料(木材、日干しレンガ、石材など)の分布を、気候(降水量の多少や気温の寒暑)や地形と関連付けて、地図から捉える。 例) 高床式住居を持つ複数の地域の写真が撮影された場所を、熱帯地域や永久凍土地域の分布と関連付けて、地図から捉える。						
	3) 世界の言語・宗教と人々の生活	1	世界の言語・宗教や民族のおもな分布を、地図から捉える。 例) イスラームの分布が西アジアに限定されず、広範囲に及ぶことを、地図から捉える。	ある言語・宗教が見られる場所の特徴を、それが見られる場所の地理的環境の共通点や相違点との関わりに着目して、地図から捉える。 例) スペイン語を使用する南アメリカの国々の特徴を、スペインの植民地支配を受けた歴史という共通点に着目して、地図から捉える。	世界の宗教の分布を、自然環境と関連付けて、地図から捉える。 例) 世界各國のイスラームの割合と、乾燥帯の分布との関連を、地図から捉える。	言語の広がりや宗教の伝播を、地域間の結びつき(貿易や交流、植民地支配など)と関連付けて、地図から考察する。 例) 東南アジアを例に、季節風を利用した交易ルートと宗教の伝播ルートとの関連を、地図から考察する。					
		2	地域の宗教の分布を、言語の分布との重なりに着目して、地図から捉える。 例) ヨーロッパのキリスト教宗派の分布と言語の分布の関連を、地図を比較して捉える。	地域の特色を、言語や宗教の共通性で生活文化のまとまりがつくられることに着目して、地図から捉える。 例) 中央アジア～北アフリカでは、言語が異なっても宗教の共通性で文化のまとまりがつけられていることを、地図から捉える。		世界の国や国際機関の公用語の選定の理由を、グローバル化や情報化の進展などと関連付けて、地図から考察する。 例) 英語が国際連合の公用語に選定された理由を、世界の公用語の分布と関連させて、地図から考察する。					
		3	世界の言語・宗教や民族の分布を、その境界に近い地域では混在することに着目して、地図から捉える。 例) 語族の分布の境界に位置する国では、複数の言語が存在していること(ベルギー、スイスなど)を、地図から捉える。	世界の特色を、人々の言語・宗教が様々な自然・社会的条件のもとで育まれる多様性に着目して、地図から捉える。 例) 世界の特徴を、言語の多様性に着目して、地図から捉える。		地域の人々の言語・宗教が多様化する要因を、情報の伝播や人々の移動などによる変容に着目して、地図から考察する。 例) マレーシアが多民族国家である要因を、交易や植民地支配の歴史などに着目して、地図から考察する。					
		4				世界の人の生活文化は、地域ごとに独自性をもち多様性に富むことを、地域間の結びつきと関連付けて、地図から捉える。 例) スペインは、バスク語やカタルーニャ語など地域ごとに独自性をもつ多様な民族がいることを、地域間の結びつきと関連付けて、地図から捉える。					
		5		都市の特徴を、民族ごとの集住に着目して、地図から捉える。 例) ロサンゼルスの特徴を、ヨーロッパ系、アフリカ系、アジア系、ヒスパニックなどの民族の集住が見られる都市であることに着目して、地図から捉える。							
	4) 歴史的背景と人々の生活	1	現在の世界の人々の生活文化に影響を与えている歴史的遺産の位置や分布を、地図から捉える。 例) ソウルは、朝鮮王朝時代の城壁の内側が現在の業務中心地区であることを、地図から捉える。	地域の特色を、その生活文化が見られる場所の歴史に着目して、地図から捉える。 例) ペキンの特徴を、中国の文化の中心地であることを示す多くの歴史的な文化施設が存在していることを、地図から捉える。	人々の生活文化や生業の歴史を、その地域の自然環境と関連付けて、地図から捉える。 例) 東アジアの黄河・長江の中下流域には、紀元前から農業が行われていたことを、地図から捉える。						
		2	現在の世界の人々の生活文化に影響を与えている、国境や支配者の変遷などの歴史的事象の位置や分布を、地図から捉える。 例) 第一次世界大戦当時の欧米の領土と独立国の分布から、アジアやアフリカは欧米の植民地支配が進み独立国が少なかったことを、地図から捉える。	地域の特色を、その生活文化が見られる場所の歴史的背景の共通点や相違点に着目して、地図から捉える。 例) 西アジアや中国の特徴を、古代文明の発祥地の一つで世界文化遺産が多いことに着目して、地図から捉える。	人々の生活に自然環境の変化が及ぼす影響を、異なる年代や時代を比較して、地図から考察する。 例) 温暖化が船の航行に及ぼす影響を、北極海の1950年ごろの流氷の限界と夏季のみ航行可能な海域を現在と比較して、地図から考察する。						
		3	移民の入植地の拡大や送り出している国の分布、それらの推移(経年変化)を、地図から捉える。 例) アメリカ合衆国の入植地の拡大を、割譲・併合・購入の国の分布と共に、地図から捉える。	地域の特色を、その地域の国家が独立した時期に着目して、地図から捉える。 例) 中央アジアや東ヨーロッパの特徴を、1980年以降に独立した国が多いことに着目して、地図から捉える。	人々の営み(技術開発、土地開発など)が自然環境に及ぼす影響や変容を、異なる年代と比較して、地図から捉える。 例) 江戸時代からの開発の動きを、大阪湾・東京湾周辺の海岸線・湖岸線・河川の変化と関連付けて、地図から捉える。						

マトリクス表 B 〈地図から習得できる『地理的な見方・考え方』〈高校・地理総合〉

青字：学習活動例

学習指導要領の中項目	小見出し	〈1〉 位置や分布〉		〈2〉 場所〉		〈3〉 人間と自然環境との相互依存関係〉		〈4〉 空間的相互依存作用〉		〈5〉 地域〉	
		・ 事物の位置や広がり、周囲の状況などを、地図から捉えることができる。	・ 着目する場所の特徴を、地図から捉えることができる。	・ 地図から自然環境の特徴を読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から複数の場所の結びつきを読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から読み取って見出した特色をもとに、着目する地域の全体像を捉えることができる。					
5) 世界の産業と人々の生活	1	世界の人々の食生活を支える農産物・漁獲物の生産地域の位置や分布、変化を、地図から捉える。 例) アメリカ合衆国で肉牛の飼育が盛んな地域を、地図から捉える。	地域の特徴を、主要な農産物・漁獲物の分布が集中する場所の地理的環境の共通性に着目して、地図から捉える。 例) 東南アジアの特徴を、米を栽培している地域が多いことに着目して、地図から捉える。	世界各地のおもな食べ物と、その原材料を生産する農牧業の分布を、気候(降水量の多少や気温の寒暑)と関連付けて、地図から捉える。 例) カカオやバナナなどのプランテーション作物の栽培の分布を、熱帯気候の分布と関連付けて、地図から捉える。	地域の食文化を、その原材料の輸入と関連付けて、地図から捉える。 例) ヨーロッパのコーヒーを飲む文化を、原料のコーヒー豆の生産地との貿易と関連付けて、地図から捉える。	地図から読み取った社会環境の共通点や相違点、他地域との結びつきに基づき、世界の人々の生活文化を支える生業の特徴を総合的に捉える。					
	2	世界の人々の生活で重要な工業製品の生産や鉱産資源の産出がさかんな地域の位置や分布、変化を、地図から捉える。 例) 世界のハイテク産業の輸出額が多い国の分布を、地図から捉える。	地域の特徴を、農牧業・漁業の背景となる社会条件(農家の経営規模や畜産の飼料作物の入手方法など)に着目して、地図から捉える。 例) ヨーロッパの特徴を、1戸あたりの農業生産額が高い国は農家の経営規模が大きいことに着目して、地図から捉える。	地域のおもな食べ物と、その原材料を生産する農業の分布を、地形(平野・台地・日当たりや水はけがよい斜面)や土壌などと関連付けて、地図から捉える。 例) ヨーロッパの農業の特徴を、平野は小麦などの畑作に、標高の高いところとオランダの低地は酪農用の牧草地に利用されていることと関連付けて、地図から捉える。	世界各地のおもな食材の特色を、その農産物の流通の性格(自給的か企業のなど)と関連付けて、地図から捉える。 例) 小麦の特色を、企業の農業が盛んな国で大規模に作られ、多くの国がそれを輸入してパンやパスタにして食べていることを、地図から捉える。	地図から読み取った貿易の特色をもとに、人々の生業に関わる課題を見出し、地域の特色を生かした解決策を構想する。 例) アフリカでは、モノカルチャー経済で発展をとげているのにGNIが低い国々があることを地図から捉え、その理由を考察するとともに、よりよい貿易のあり方を構想する。					
	3			人々の生業の工夫を、自然環境と関連付けて、地図から捉える。 例) アメリカ合衆国の肉牛生産の伸びを、オガララ帯水層による灌漑と関連付けて、地図から捉える。	地域の食文化を、他地域との結びつきの歴史(植民地支配や、交易による文化の伝播など)と関連付けて、地図から捉える。 例) ベトナムでフランスパンを食べる文化があることを、フランスの植民地支配を受けた歴史と関連付けて、地図から捉える。						
	4		地域の特徴を、生産している工業製品や産出する鉱産資源に着目して、地図から捉える。 例) 西アジアの特徴を、原油を生産する国が多いことに着目して、地図から捉える。		地域の生業を支える工業原料やエネルギー資源の入手先、製品の出荷先を、他国・地域との協力関係、歴史的な結びつきなどと関連付けて、地図から捉える。						
	5	工業生産額や工業付加価値額が高い地域の位置や分布、変化を、地図から捉える。 例) ヨーロッパの工業付加価値額は、ドイツが突出して高いことを地図から捉える。	国・地域の特徴を、1人あたりGNIやその推移などの経済発展に着目して、地図から捉える。 例) インドの特徴を、1人あたり経済発展をの伸びに着目して、地図から捉える。		工業生産が発展した理由を、外国企業の進出や国際分業などと関連付けて、地図から捉える。						
	6		地域の特徴を、交通や通信の発達とその背景となっている社会条件に着目して、地図から捉える。 例) アフリカ諸国の特徴を、インターネット普及率の伸びによって新興市場として期待されていることに着目して、地図から捉える。		交通や通信が整備されている理由について、自然条件に着目して、地図から捉える。 例) オーストラリア大陸では、広大な土地を人々が移動するために、南北・東西に貫く形で鉄道が通っていることを、地図から捉える。						
	7		地域の特徴を、経済や生業を支える輸出品や輸入品、貿易相手国などに着目して、地図から捉える。 例) アフリカの特徴を、特定の産物や鉱産物の輸出に頼る国が多いことに着目して、地図から捉える。								
	8	外国人労働者を送り出している国・地域と受け入れている国・地域の位置や広がり、地図から捉える。 例) サウジアラビアなどの産油国が、周辺の国々から外国人労働者を受け入れていることを、地図から捉える。	地域の特徴を、国内や国外の地域間で見られる人口移動の状況に着目して、地図から捉える。 例) ヨーロッパの特徴を、1人あたりのGNIが高い国は外国人労働者の受け入れ国となり、低い国は送り出し国になっていることに着目して、地図から捉える。			国内や国外の地域間で見られる人口移動の理由を、経済発展の状況や歴史的背景などと関連付けて、地図から捉える。 例) 中国では、仕事を求めて都市部への人口移動が起こっていることを、経済格差と関連付けて、地図から捉える。 例) アフリカやインドの国外への人口移動を、旧宗主国へ向かう人々が多いことと関連付けて、地図から捉える。					
	9	同じ地域に見られる経済的な結びつき(国際機構・協定)であっても、その目的によって加盟国が異なることを、地図から捉える。 例) EU加盟国、ユーロ導入国、シェンゲン協定締結国は一致しないことを、地図から捉える。	地域に見られる経済圏の加盟国の特徴を、主要産業や1人あたりGNIなどに着目して、地図から捉える。 例) ASEAN諸国の特徴を、1人あたりGNIには地域差があり、加盟国間でも経済発展の状況に差があることに着目して、地図から捉える。			地域にみられる経済圏の加盟国の推移を、地図から捉える。 例) EUの加盟国の変化を、ECを構成していた国々により発足し、年を追うごとに北欧や東欧に加盟国を拡大させ、現在はほぼヨーロッパ全域の国々によって構成される組織となっていることと関連付けて、地図から捉える。					
	10					複数の国家が、政治・経済・文化など様々な面で結びつく理由を、経済圏の加盟国の規模や政治・経済の状況などと関連付けて、地図から捉える。 例) 比較的小規模な国が多いヨーロッパは、EUとしてまとめることで政治や経済で国際社会における存在感を増やすことができることを、地図から捉える。					
B(2) 地球的課題と国際協力	1) 地球的課題	1	着目する地球的課題が発生している地域の位置や広がり、その変化を地図から捉える。		地球的課題の解決と持続可能な社会の実現に向けて、国際協力のもと多様な援助活動が行われていることを、地図から捉える。 例) 世界のODA受取額が多い地域と、おもな先進国の供与先を、地図から捉える。	世界の地球的課題が相互に関連していることに着目して、地図から総合的に捉える。					
	2) 地球環境問題	1	自然環境(陸地、海、大気など)に課題を抱える地域の分布を、地図から捉える。 例) 世界の森林破壊、砂漠化、水質汚濁、水資源の枯渇、大気汚染、地球温暖化、生物多様性の危機などが発生している場所の分布を、地図から捉える。	世界各地で見られる環境問題が発生している地域の特徴を、経済、文化的背景、自然環境の変化、歴史的背景、社会の動きなどと関連付けて、地図から捉える。 例) 地球環境問題が発生している地域の特徴を、先進国と発展途上国とで深刻な状況に直面する年代が異なることと関連付けて、地図から捉える。	地球環境問題の進行を、人口の増加やそれに伴う経済活動などと関連付けて、地図から捉える。 例) サヘル砂漠化、人口増加に伴う過放牧や過耕作と関連付けて、地図から捉える。 例) アマゾンや東南アジアなどの森林減少の進行を、農地や養殖施設の拡大を目的とした森林伐採によるものであることと関連付けて、地図から捉える。	環境問題の要因を、地域間の結びつきや広がりや関連付けて、地図から捉える。 例) 大気汚染が及ぼす影響は、原因物質を排出している国・地域を越えて広がりを拡大していることを、地図から捉える。 例) 日本が世界のどの国からどのような形でパーチャルウォーターを輸入しているかを、地図から捉える。	複数の地図から捉えた経済や社会の特色をもとに、世界における経済格差の原因を考察したり、解決策を構想したりする。 世界の環境問題を、地図から読み取った課題の現状や要因、地域性を踏まえた課題解決の方向性といった側面から総合的に捉える。 例) 世界の熱帯林破壊を、発展途上国で深刻であることや、農業や牧畜の拡大による要因、生物多様性などの側面から総合的に捉える。				
	2	世界各地の環境問題に関わる指標の分布を、地図から捉える。 例) 世界の二酸化炭素など温室効果ガス排出量の多い国・地域の位置や広がりや変化を、地図から捉える。	環境問題が発生している地域の特徴を、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球規模で協力して取り組むべき課題であることに着目して、地図から捉える。 例) 世界各地の気温上昇やそれによる被害(海面上昇、山岳水河の後退、山火事の増加など)が発生している地域の特徴を、世界の国々が排出する温暖化ガスの影響に着目して、地図から捉える。	深刻な環境問題が起こる地域がある理由を、地形や気候などの自然環境と関連付けて、地図から捉える。 例) メキシコの大気汚染問題を、盆地の地形や風向きと関連付けて、地図から捉える。		環境問題の発生が及ぼす影響や解決の方向性を、持続可能な社会の実現を目指して各国の取組や国際協力と関連付けて、地図から捉える。 例) JICAがどのような国に上水道普及のための技術協力や資金協力を行っているかを、地図から捉える。	世界の環境問題を、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球規模で協力して取り組むべき課題であると認識して、その解決に向け、地図から構想する。 例) 世界の熱帯林破壊を、人口増加や経済成長による食生活の変化などの観点から、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球規模で協力して取り組むべき課題であると認識して、その解決に向け地図から構想する。				
	3	世界各地で見られる環境問題について、分布の傾向や地域間の差異を、地図から捉える。 例) 1人あたりの年間水資源消費量が多い国・地域と、安全な飲料水の確保が十分ではない国・地域の位置や広がり、地図から捉える。									
	4										
	3) 資源・エネルギー問題	1	世界のエネルギー資源や鉱産資源の、生産と消費の分布の偏りを、地図から捉える。 例) 世界の油田の分布の偏りを、地図から捉える。	世界各地で見られる資源・エネルギー問題が発生している地域の特徴を、経済、文化的背景、自然環境の変化、歴史的背景、社会の動きなどと関連付けて、地図から捉える。 例) エネルギー資源を産出する国の特徴を、世界でも特定の地域に偏っており、大量消費する国とは一致しないことに着目して、地図から捉える。	世界と日本のエネルギー資源、鉱産資源、電力の生産地域の偏りを、地形や気候などの自然環境と関連付けて、地図から捉える。 例) 世界の原油(石油)や石炭、鉄鉱石の流れを、地図から捉える。	エネルギー資源や鉱産資源を通じた国際間の結びつきを、生産地から消費地への移動と関連付けて、地図から捉える。	地図から読み取った、エネルギー資源や鉱産資源の生産と消費の偏りに基づき、世界の資源・エネルギー問題の課題解決の方向性を総合的に捉える。 例) 世界のエネルギー資源の生産と消費の地域差を、化石燃料に偏る現状や、温暖化への影響などの側面から総合的に捉える。				
	2	世界や日本の資源・エネルギー問題に関わる指標の分布を、地図から捉える。 例) 世界の1人あたり電力消費量(供給量)の多い国を、階級区分図から捉える。	資源・エネルギー問題が発生している地域の特徴を、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球規模で協力して取り組むべき課題であることに着目して、地図から捉える。 例) エネルギー資源を産出する国の特徴を、資源の枯渇に対応するには、消費する国々との国境を越えた協力が必要であることに着目して、地図から捉える。								
	3	世界各地で見られる資源・エネルギー問題について、分布の傾向や地域間の差異を、地図から捉える。 例) 世界のおもな国の電力源(火力、水力、原子力、他)の割合の違いを、地図から捉える。									
	4					世界と日本の資源・エネルギー問題への取り組みを、地域の自然環境と関連付けて、地図から捉える。 例) 南北アメリカ大陸では、広大な農地に恵まれた自然環境を生かして、化石燃料への依存の軽減に効果的なバイオエタノールの生産を行っていることを、地図から捉える。	資源・エネルギー問題の発生が及ぼす影響や解決の方向性を、持続可能な社会の実現を目指して各国の取組や国際協力と関連付けて、地図から捉える。 例) さまざまな国で行われている再生可能エネルギーへの転換の取り組みを、地図から捉える。	世界の資源・エネルギー問題を、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球規模で協力して取り組むべき課題であると認識して、その解決に向け、地図から構想する。 例) 世界のエネルギー問題を、化石燃料の使用抑制や、再生可能エネルギーの普及などの観点から、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球規模で協力して取り組むべき課題であると認識して、その解決に向け地図から構想する。			

マトリクス表 B 〈地図から習得できる『地理的な見方・考え方』〉〈高校・地理総合〉

青字：学習活動例

学習指導要領の中項目	小見出し	〈① 位置や分布〉		〈② 場所〉		〈③ 人間と自然環境との相互依存関係〉		〈④ 空間的相互依存作用〉		〈⑤ 地域〉	
		・ 事物の位置や広がり、周囲の状況などを、地図から捉えることができる。		・ 着目する場所の特徴を、地図から捉えることができる。		・ 地図から自然環境の特徴を読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。		・ 地図から複数の場所の結びつきを読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。		・ 地図から読み取って見出した特色をもとに、着目する地域の全体像を捉えることができる。	
4)人口問題	1	世界や日本の人口が集中・減少している地域の分布を、地図から捉える。	世界各地で見られる人口問題が発生している地域の特徴を、経済、文化的背景、自然環境の変化、歴史的背景、社会の動きなどと関連付けて、地図から捉える。 例) 発展途上国の特徴を、経済の発展が人口増加に追いつかず、先進国とは人口問題の特徴が異なることと関連付けて、地図から捉える。	人口問題が発生している地域の特徴を、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球的視野で協力して取り組むべき課題であることに着目して、地図から考察する。	人口問題の発生が及ぼす影響や解決の方向性を、持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力と関連付けて、地図から考察する。	人口移動の要因を、地域間の結びつきや広がりに関連付けて、地図から考察する。 例) 関東地方を例に、ドーナツ化現象と都心回帰を、人口増加率の複数年次の地図を比較して、地図から考察する。	世界の人口問題を、地図から読み取った課題の現状や要因、地域性を踏まえた課題解決の方向性といった側面から総合的に捉える。 例) 世界の平均寿命の地域差を、アフリカの発展途上国などで低い現状や、人口問題や貧困などの要因、経済的自立を目指していることなどの側面から総合的に捉える。				
	2	世界や日本の人口問題に関わる指標の分布を、地図から捉える。 例) 世界で年少人口率、乳児死亡率の高い地域を、地図から捉える。	人口問題が発生している地域の特徴を、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球的視野で協力して取り組むべき課題であることに着目して、地図から考察する。 例) 中南アフリカ諸国の特徴を、平均寿命が世界と比べ短い状況が見られ、地球的視野で協力して取り組むべき課題であることに着目して、地図から考察する。								
	3	世界各地で見られる人口問題について、分布の傾向や地域間の差異を、地図から捉える。 例) 世界の平均寿命の地域差を、地図から捉える。									
	4				人口問題の発生が及ぼす影響や解決の方向性を、持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力と関連付けて、地図から考察する。 例) 人口爆発の及ぼす影響を、持続可能な社会の実現を目指した各国の取組(中国やインドの人口抑制政策など)と関連付けて、地図から考察する。	世界の人口問題を、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球的視野で協力して取り組むべき課題であると認識して、その解決に向け、地図から構想する。 例) 世界の平均寿命の地域差を、医療水準、栄養状態などの観点から、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球的視野で協力して取り組むべき課題であると認識して、その解決に向け地図から構想する。					
5)食糧問題	1	世界の食糧問題に関する事象が見られる場所の位置や分布を、地図から捉える。 例) 世界の、栄養不足の国の分布を、地図から捉える。	世界各地で見られる食糧問題が発生している地域の特徴を、経済、文化的背景、自然環境の変化、歴史的背景、社会の動きなどと関連付けて、地図から捉える。 例) 世界の栄養不足人口の割合が高い国・地域の特徴を、貧困層の割合が高い国・地域と関連付けて、地図から捉える。	食糧問題が発生している地域の特徴を、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球的視野で協力して取り組むべき課題であることに着目して、地図から考察する。 例) アフリカの栄養不足人口の割合が高い国・地域の特徴を、紛争と難民の発生が見られ、地球的視野で協力して取り組むべき課題であることに着目して、地図から考察する。	食糧問題が発生する要因を、国家間や地域間の結びつきや広がり、その歴史的背景や変容と関連付けて、地図から考察する。 例) アフリカの食糧問題を、植民地時代のなごりによる貧困や、食糧供給するための交通網の未整備と関連付けて、地図から考察する。	世界の食糧問題を、地図から読み取った課題の現状や要因、地域性を踏まえた課題解決の方向性といった側面から総合的に捉える。 例) 世界の食料供給の地域差を、発展途上国で不足している現状や干ばつ、貧困などの要因、農業開発などの側面から総合的に捉える。					
	2	世界の食糧問題に関わる指標の分布を、地図から捉える。 例) 世界の栄養不足人口の割合が高い国・地域を、地図から捉える。	食糧問題が発生している地域の特徴を、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球的視野で協力して取り組むべき課題であることに着目して、地図から考察する。 例) アフリカの栄養不足人口の割合が高い国・地域の特徴を、紛争と難民の発生が見られ、地球的視野で協力して取り組むべき課題であることに着目して、地図から考察する。								
	3	世界各地で見られる食料問題について、分布の傾向や地域間の差異を、地図から捉える。 例) 世界の国・地域別の栄養供給量の地域的な偏りを、地図から捉える。									
	4				食糧問題の発生が及ぼす影響や解決の方向性を、持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力と関連付けて、地図から考察する。 例) 日本の農業支援によるアフリカの高収量品種の米の普及状況を、地図から考察する。	世界の食糧問題を、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球的視野で協力して取り組むべき課題であると認識して、その解決に向け、地図から構想する。 例) 世界の食料供給の地域差を、国・地域の経済力の違いや、飼料作物としての利用などの観点から、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球的視野で協力して取り組むべき課題であると認識して、その解決に向け地図から構想する。					
6)都市・居住問題	1	世界の大都市の位置や分布を、地図から捉える。 例) アメリカ合衆国の都市は、西部と比べて東部に多いことを、地図から捉える。	都市の特徴を、形状や中心業務地区や交通などの都市機能に着目して、地図から捉える。 例) キャンベラの特徴を、幾何学的な形の計画都市であることに着目して、地図から捉える。 例) ソウルの特徴を、政治、経済の機能や交通網の集中などに着目して、地図から捉える。	都市が成立した要因を、自然環境と関連付けて、地図から捉える。 例) 中国の大都市は、沿海部や河川流域に多く連なっていることを、地図から捉える。	都市・居住問題が発生する要因を、地域間の結びつきや広がりとその変容、産業、文化、交通・通信などと関連付けて、地図から考察する。 例) 中国の大都市は、沿海部や河川流域に多く連なっていることを、地図から捉える。	世界の都市・居住問題を、地図から読み取った課題の現状や要因、地域性を踏まえた課題解決の方向性といった側面から総合的に捉える。 例) メキシコシティの都市・居住問題を、インフラ整備が追い付かない現状や交通渋滞、地形的な要因といった側面から総合的に捉える。					
	2	世界の都市の都市圏の広がりや変容を、地図から捉える。 例) ベキンの市街地の広がりの変化から、都市の発展を、地図から捉える。		都市・居住問題が地域によって現れ方や程度などが違うことを、各地域の地形、気候などの自然環境の違いと関連付けて、地図から捉える。							
	3	世界の都市・居住問題に関する事象(スラム、インナーシティなど)が見られる場所の位置や分布を、地図から捉える。 例) メキシコシティの住宅地で、中心業務地区とスラムの位置を捉える。	都市・居住問題が発生している地域の特徴を、経済、文化的背景、自然環境の変化、歴史的背景、社会の動きなどと関連付けて、地図から捉える。 例) 発展途上国の特徴を、経済の発展が人口の大都市集中に追いつかず、先進国と都市問題の課題が異なることと関連付けて、地図から捉える。								
	4	都市・居住問題に関わる指標の分布を、地図から捉える。 例) 世界の都市人口率の地域差を、地図から捉える。	都市・居住問題が発生している地域の特徴を、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球的視野で協力して取り組むべき課題であることに着目して、地図から考察する。 例) マニラやメキシコなどの発展途上国の大都市の特徴を、スラムの形成が見られ、地球的視野で協力して取り組むべき課題であることに着目して、地図から考察する。								
	5	世界各地で見られる都市・居住問題について、分布の傾向や地域間の差異を、地図から捉える。 例) 発展途上国は、先進工業国に比べて、人口が極集中する傾向にあることを、地図から捉える。									
	6				都市・居住問題の発生が及ぼす影響や解決の方向性を、人口や産業、交通・通信などに着目して、持続可能な社会の実現を目指した各国の取組と関連付けて、地図から考察する。 例) アメリカのポートランドでは、都市の中心部を再整備し、公共交通網を整えインナーシティ問題の解決に取り組んだことを、地図から考察する。	世界の都市・居住問題を、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球的視野で協力して取り組むべき課題であると認識して、その解決に向け、地図から構想する。 例) 世界各国の大都市でみられる排ガスによる環境汚染の問題を、越境大気汚染や環境規制などの観点から、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球的視野で協力して取り組むべき課題であると認識して、その解決に向け地図から構想する。					
7)民族問題	1	世界の民族問題に関する事象(紛争、難民、少数民族など)が見られる場所の位置や分布を、地図から捉える。 例) 西アジアで、クルド人が国にまたがって分布していることを、地図から捉える。	民族問題が発生している地域の特徴を、経済、文化的背景、歴史的背景、社会の動きなどと関連付けて、地図から捉える。 例) 民族問題が発生している地域の特徴を、一つの国の中の多数派と少数派という異なる立場の存在と関連付けて、地図から捉える。	民族問題が発生する要因を、国家間や地域間の結びつきや広がり、その歴史的背景や変容と関連付けて、地図から考察する。 例) カシミア紛争が発生した要因を、インドやパキスタンとの結びつき、その歴史的背景などと関連付けて、地図から考察する。	世界の民族問題を、地図から読み取った課題の現状や要因、地域性を踏まえた課題解決の方向性といった側面から総合的に捉える。 例) パレスチナ問題を、これまでのユダヤ人の移住の変遷やパレスチナ難民の増加、パレスチナ自治区やイスラエル占領地の位置などの側面から、総合的に捉える。						
	2	世界各地の民族問題が起こる要因を、民族や言語などの分布に着目して、地図から捉える。 例) スリランカの民族紛争が起きた要因を、民族の分布に着目して、地図から捉える。	民族問題が発生している地域の特徴を、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球的視野で協力して取り組むべき課題であることに着目して、地図から考察する。 例) パレスチナ問題を、地球的視野で協力して取り組むべき課題であることに着目して、地図から考察する。								
	3	民族問題に関わる事象が見られる位置や分布の変容を、地図から捉える。 例) パレスチナ戦争でイスラエルが実効支配を拡大してきたことを、複数の年次の地図を比較して捉える。									
	4				民族問題の発生が及ぼす影響や解決の方向性を、持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力と関連付けて、地図から考察する。 例) 国連PKOが展開しているのはどのような地域なのかを、地図から考察する。	世界の民族問題を、地球上の各地に出現し、人類が国境や地域を越えて地球的視野で協力して取り組むべき課題であると認識して、その解決に向け、地図から構想する。 例) パレスチナ問題を、人間の安全保障や基本的人権などの観点から、人類が国境や地域を越えて地球的視野で協力して取り組むべき課題であると認識して、その解決に向け地図から構想する。					

マトリクス表 B 〈地図から習得できる『地理的な見方・考え方』〉〈高校・地理総合〉

青字：学習活動例

学習指導要領の中項目	小見出し	〈1〉 位置や分布〉		〈2〉 場所〉		〈3〉 人間と自然環境との相互依存関係〉		〈4〉 空間的相互依存作用〉		〈5〉 地域〉	
		・ 事物の位置や広がり、周囲の状況などを、地図から捉えることができる。		・ 着目する場所の特徴を、地図から捉えることができる。		・ 地図から自然環境の特徴を読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。		・ 地図から複数の場所の結びつきを読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。		・ 地図から読み取って見出した特色をもとに、着目する地域の全体像を捉えることができる。	
C (1) 自然環境と防災	1)日本の自然環境	1	自然災害の発生要因となる地形の分布を、地図から捉える。 例) 洪水の要因となる河川の広がりについて、地図から捉える。	日本の特徴を、自然災害が発生しやすい地形に着目して、地図から捉える。 例) 日本の特徴を、複数のプレートが接する変動帯に位置して地震が多いことに着目して、地図から捉える。 例) 日本の特徴を、海岸線が長く多様であるため、津波や高潮の影響を受けやすいことに着目して、地図から捉える。	自然災害が人々に大きな被害をもたらす要因を、地形や気候と関連付けて、地図から捉える。 例) 洪水の要因を、河川が短く急勾配であることと関連付けて、地図から捉える。					日本で発生する自然災害やそれに対する人々の備えの特色を、地形や気候の特色に着目して、総合的に捉える。 例) 変化に富んだ地形や気候が見られるため、地震や熱帯低気圧などの自然現象によって、様々な自然災害が発生していることを、総合的に捉える。	
		2	日本各地の季節による降水量や気温の違いに影響を与える自然環境（季節風や山地の地形、海流など）を、地図から捉える。 例) 日本周辺の気団の位置や前線の広がりを、地図から捉える。	日本の特徴を、変化に富んだ気候を持つことに着目して、地図から捉える。 例) 日本の特徴を、モンスーンの影響を受けて前線や台風による豪雨や豪雪が見られることに着目して、地図から捉える。	日本の各気候区分ごとの特徴を、気候が人々の生活や生業に与える影響と関連付けて、地図から捉える。 例) 稲作に影響を与える、やませによる冷害が発生する気候区を、地図から捉える。						
		3		日本の特徴を、他の地域の地形や気候などの自然的特徴と比較して、地図から捉える。 例) 日本の特徴を、アイルランドやイギリスの地形と比較すると、比較的急峻な山地が多く土砂災害の影響を受けやすいことに着目して、地図から捉える。	人々の生活や生業の工夫を、自然災害への備えや対応と関連付けながら、地図をもとに考察する。 例) 古くからの集落はやや小高い土地にあり、低地は水田に利用されていたことを洪水への備えや対応と関連付けて、地図から考察する。						
	2)自然災害	1	災害につながる自然現象が発生している地域の位置や広がりを、地図から捉える。 例) 豪雪地帯・特別豪雪地帯は、日本海側を中心に広がりを、地図から捉える。 例) 世界の自然災害リスクの高い地域を、災害の種類と被害状況を自然環境と関連付けながら捉える。	地域の特徴を、どのような災害が予測されるかに着目して、地図から捉える。 例) 大阪湾周辺の特徴を、液状化の要因となる埋立地や0m地帯、対策としての広域防災拠点の分布に着目して、地図から捉える。	世界的に見て日本で地震災害が多く発生する理由を、人口・産業分布とプレートの境界や活断層の近さと関連付けて、地図から考察する。 例) 日本が世界的に見て地震災害が多く発生している理由を、プレートが隣接する変動帯に位置するとともに、経済活動もかんごと関連付けて、地図から考察する。	ある地域で発生した自然災害が、離れた距離の地域にも影響を及ぼすことを、社会的な結びつきなどと関連付けて、地図から考察する。 例) 海外で起きた地震によって、部品を生産する海外工場が被災して日本への出荷が停止し、日本企業の製品の製造ができなくなることを、地図から考察する。					
		2	着目する国・地域の震源分布や地震の要因、地震による被害の広がりを、地図から捉える。 例) 日本では海溝型地震と直下型地震の両方が多く発生していることを、地図から捉える。 例) 日本の内陸部の活断層の分布を、地図から捉える。	地震災害が発生する地域の特徴を、地形や過去の地震災害及び今後予想される地震の発生に着目して、地図から捉える。 例) 四国地方から東海地方にかけての地域の特徴を、フィリピン海プレートとユーラシアプレートが接する境目（南海トラフ）に近いために、これまで多くの地震が発生してきたことに着目して、地図から捉える。	地震災害がもたらす被害が場所によって異なる理由を、自然環境や土地利用の違いなどと関連付けて、地図から考察する。 例) 地震の発生は、沿岸部では津波、山間部では土砂災害、都市部では家屋倒壊や火災、と異なる被害となる理由を、地図から考察する。 例) 東日本大震災で発生した津波の高さは、震源からの距離だけでなく海岸地形によっても違いが見られることを、地図から考察する。 火山活動による災害の被害の範囲とその特徴を、地図から捉える。						
		3			地震災害がもたらす被害が場所によって異なる理由を、自然環境や土地利用の違いなどと関連付けて、地図から考察する。 例) 地震の発生は、沿岸部では津波、山間部では土砂災害、都市部では家屋倒壊や火災、と異なる被害となる理由を、地図から考察する。 例) 東日本大震災で発生した津波の高さは、震源からの距離だけでなく海岸地形によっても違いが見られることを、地図から考察する。 火山活動による災害の被害の範囲とその特徴を、地図から捉える。						
		4	日本の火山の位置や分布を、プレートの境界に着目して地図から捉える。 例) 日本の火山前線が、プレートの境界と並行に走っていることを、地図から捉える。	火山災害が発生する地域の特徴を、世界の変動帯の広がりに着目して、地図から捉える。 例) 火山災害が発生した場所の特徴を、変動帯に着目して、地図から捉える。	雲仙岳の噴火による被害の範囲を、地図から捉える。 世界や日本の風水害(浸水や家屋被害)を、大雨や台風による洪水・高潮や、土砂流出と関連付けて、地図から捉える。 例) バングラデシュの浸水被害を、洪水や高潮と関連付けて地図から捉える。						
		5	世界や日本の大雨の分布を、要因(熱帯低気圧、季節性降雨など)との関わりに留意して、地図から捉える。 例) 世界の年平均降水量と、おもな熱帯低気圧の進路との関連を、地図から捉える。		日本の気象災害の被害を、大雪、台風、冷害、干害、土砂災害と関連付けて、地図から捉える。 風水害による被害が多い地域の特徴を、地形と人々の生活を関連付けて、地図から考察する。 例) 風水害の特徴を、臨海部や河川流域の地形の地域に多いことと、そこは水を必要とする人口集中地域と重なることに着目して、地図から考察する。						
		6	気候変動が見られる地域を、複数年次の地図を比較して捉える。 例) 関東地方の猛暑やゲリラ豪雨が頻発している地域を、複数年次の地図を比較して捉える。 例) 関東地方でヒートアイランドが生じている地域を、複数年次の気温の分布図を比較して捉える。		風水害による被害が多い地域の特徴を、地形と人々の生活を関連付けて、地図から考察する。 例) 風水害の特徴を、臨海部や河川流域の地形の地域に多いことと、そこは水を必要とする人口集中地域と重なることに着目して、地図から考察する。						
		7			自然災害が人々の生活に及ぼす被害や、それを防ぐ災害対策を、地域によって異なる環境と関連付けて、地図から捉える。 例) 風水害の対策を、山間部では土砂災害の備え、沿岸地域では高潮や津波への備えなど地域の環境によって異なることと関連付けて、地図から捉える。	自然災害発生時に、国や地方公共団体の諸機関や企業、ボランティア団体などが連携して避難、救助、復興活動に活動したり、災害発生に備えて連携協定を結んだりしていることを、地図から捉える。 例) 伊豆大島では噴火に対して、国や地方公共団体の諸機関や企業、地域の人々が連携して避難する体制を整えていることを、地図から捉える。	地図から読み取った地域の集落の分布や規模、道路網や防災にとつて重要な施設の位置などをもとに、災害が発生した際の避難計画や防災のための施策の在り方を構想する。 例) 地域の人々のハザードマップを活用しながら、防災・減災の視点からタイムラインを作成したり、自主防災計画を構想したりする。 地域性を踏まえた防災のあり方について、自然条件や社会条件との関わりや持続可能な地域づくりなどに着目して、構想する。				
		8			地域で発生しやすい災害の特徴や防災のあり方について、過去の災害の状況や対策を踏まえながら考察する。 例) 過去の災害の教訓を石碑などで残したりして各地で過去の自然災害の情報を伝承し、危険を回避したり災害の拡大を抑えたりしようとしてきたことを、地図から考察する。	地域の防災のあり方について、その社会条件と関連付けてハザードマップなどの資料をもとに考察する。 例) 地域の防災のあり方について、他地域や諸機関からの支援の受けやすさや理由を関連付けて、危険を避ける方法をハザードマップなどの資料をもとに考察する。					
	9			ハザードマップと実際被害状況を比較して、想定されていた被害との差異や共通点を考察して、今後の災害対策を構想する。 例) ハザードマップの想定浸水範囲と、実際の浸水状況を比較し、想定した被害状況との差異や共通点を整理して課題を明らかにするとともに、より実用的なハザードマップを構想する。	ハザードマップと実際被害状況を比較して、想定されていた被害との差異や共通点を考察して、今後の災害対策を構想する。 例) ハザードマップの想定浸水範囲と、実際の浸水状況を比較し、想定した被害状況との差異や共通点を整理して課題を明らかにするとともに、より実用的なハザードマップを構想する。						
	10			自然災害に対する避難計画や防災のための施策の在り方について、避難施設の位置と関連付けて、ハザードマップから考察する。 例) 火山の噴火に伴う適切な避難ルートについて、噴出物の分布範囲と避難場所の位置と関連付けて、火山ハザードマップから考察する。	自然災害に対する避難計画や防災のための施策の在り方について、避難施設の位置と関連付けて、ハザードマップから考察する。 例) 火山の噴火に伴う適切な避難ルートについて、噴出物の分布範囲と避難場所の位置と関連付けて、火山ハザードマップから考察する。						
	11			地域の防災のあり方について、その自然環境と関連付けてハザードマップなどの資料をもとに考察する。 例) 地域の防災のあり方について、想定される災害、危険性の高い地域とその理由を関連付けて、危険を避ける方法をハザードマップなどの資料をもとに考察する。	地域の防災のあり方について、その自然環境と関連付けてハザードマップなどの資料をもとに考察する。 例) 地域の防災のあり方について、想定される災害、危険性の高い地域とその理由を関連付けて、危険を避ける方法をハザードマップなどの資料をもとに考察する。						
C (2) 生活圏の調査と地域の展望	1)生活圏の調査と地域の展望	1	生活圏に顕在化する課題の分布や広がりを、地図から捉える。 例) 空き家率の高い地域や買い物難民が発生している地域を、地図から捉える。 例) GISを活用して、地域の人口比率の変化を地図から捉える。	地域の特徴を、生活圏で生じている課題と関連付けて、地図から捉える。 例) 公共交通機関に課題がある地域は、自家用車保有台数が多い特徴があることを、地図から捉える。	生活圏で生じている課題が人々の生活に与える影響を、自然環境と関連付けて、地図から捉える。 例) 大きな地震災害が発生しやすい地域は、地震保険料の高い地域であることと関連付けて、地図から捉える。 例) 地域の人口密度と標高との関わりを、GISを活用して捉える。	生活圏で見られる地理的な課題が生じる理由を、他地域との結び付きや産業と関連付けて、地図から考察する。 例) 慢性的な交通渋滞や環境汚染などの課題が生じる理由を、他地域との結び付きや産業が発達したことと関連付けて、地図から考察する。	生活圏で見られる地理的な課題を、その地域の歴史的背景や地理的背景などを踏まえながら、総合的に捉える。 例) 過疎化する地域の特徴を、市町村合併の変遷や公共交通機関の衰退、災害の影響などの視点から捉える。				
		2		生活圏で見られる地理的課題を改善するための方策を、地図から考察する。 例) 生活圏の特徴を、GISを活用して、人口が集まる地域を捉えるとともに、よりよいまちづくりをめざして必要な施設を考察する。		生活圏で見られる地理的な課題を、その地域の社会条件や自然条件を克服したり生かしたりしながら、持続可能な地域を目指したまちづくりについて構想する。 例) 過疎化を緩和し、まちとしての機能を維持、向上させるための施策を、社会条件や自然条件に着目して構想する。 例) 地域での生活が持続するために、どのように他地域と結び付きを強化するとよいか、GISなどを活用しながら構想する。					

日本地理教育学会 第74回大会 発表資料

概念形成に着目した地図活用能力の系統性(3)

—高等学校地理総合における試案の作成—

教授用資料

印刷・発行 株式会社 帝国書院 2025年4月